

昭和四十二年九月三十日招集(水二号)  
第三回市議会定例会會議錄



館山市議会第三回定例会会議録(第二号)

昭和四十一年九月招集

一九月三十日(金曜日)

一 議事日程(第二号)

第一 請願書

第二 通告質問

第三 議案第五号

議案第五十号

職員団体の登録に関する条例の全部を  
改正する条例の制定について

特例

職員団体のため、職員が行為の制限

議案第五十号

館山市取員の旅費に関する条例の一部  
を改正する条例の制定について

議案第五十号

館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に  
関する条例の一部を改正する条例の制定

第四

について

議案第五十四号

館山市教育長、諸給与及び勤務条件等  
に關する条例の一部を改正する条例の制定  
について。

議案第五十五号

館山市証人等、実費弁償に關する条例  
の制定について。

第五 議案第五十六号

館山市学校安全共有掛金徴収条例の一部  
を改正する条例の制定について。

第六 議案第五十七号

市道路線の認定及び廃止について

第七 議案第五十八号

昭和四十一年度館山市一般会計補正予算、

議案第五十九号

昭和四十一年度館山市国民健康保険特別会計補正予算、

議案第六十号

昭和四十一年度館山市休養施設特別会計補

第八

正予算、

議案第六十一号

昭和四十一年度館山市館山エースホステル特別会計



補正予算

第百一議案第六十二号 昭和四十一年度館山市上水道事業特別会計  
補正予算

午前十時三十分 開議

議長(田中祿郎君) 本日の出席議員数二十九名。

こゝより第三回市議会定例会第二日會議を開会いたします。  
この際御報告いたします。

監査委員より七月八月九月実施の例月検査及び事務監  
査の結果が報告されております。それぞゝお手元に配付  
しております。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行ないます。

日程第一 請願書

(書記朗読)

(三三番議員登壇)

三三番(三沢節君)ただ今上程さしまいし請願書、紹介議員として一言申し上げたいと思います。

皆さまがすでに御承知かと思いますが、最近学校給食というものが普及さしまいし特に都市においては、その普及率が高くて、その結果として効果といえますが、申すまでもないであります。かつては農村地帯、或いは漁業地帯は都市よりも体位がすぐれておつたのが普通でございまいしが、今は逆に農村がきわめて身長に比例した胸囲が少ないというのが現状だと思ひます。

こういう観点から特に九重地区もこの請願書にもございますように、四年前から給食を実施しないという要望が出ておつたのでございますが、当時館野小学校

講堂の建設と引き続き、田中におきましては、体育館の建設と大工事がございまして、一時中座しておりました。でございます。ところが、本年の夏、学校が各部落を回りまして、部落座談会を開催いたしまして、たまにたまに大きく議題に取り上げられて、PTAの総意として給食センターを作つたらどうか。という意見がPTAとしてまとまつたのでございます。その後、各部落組合長、或いは区長、そういったものが了解と賛成を得て、かつて口答によつて、市の方に請願を。さらに今回は、文書による請願をいたした次第でございます。

御承知のとおり、館野地区特に安布里とか、山本地区は、構造改善事業によりまして、朝の仕事が非常にふえてきたのであります。いちごの大型ハウス、或いはトンネルハウス、というものが非常に多く栽培されております。

この採取に当たっては全部朝つゆうあるときに採取一な  
ければ価値がないというところから或いは裏作として  
きゅうりの栽培も同じことが言えるのでございます。

従いまして家族総動員でこの採取に当たりますので、  
母親たちが生徒の弁当を作るのが大きな負担になって  
おるのが現状でございます。またそういった以外に地区  
におきましても今の子供の弁当は私たちが学校に通って  
いたときと弁当と違つて日々丸弁当ではおさまりがつかない。  
栄養を考えた弁当を作るということになる。本当に母親  
として負担が重なつてくるわけでございます。

そういうような労力を軽減してもらいたいという意味が一つ  
ございます。さらに学校側から見ますると給食を実施  
することによって新しい教育の機会を得られる。

これが非常に先生としても期待できるのではないかというよ

うなことも申されております。さうには完全給食による  
ところ、栄養を考えた給食というところから私としては体  
位が向上できるとは言いませんが、体位向上の一助とな  
るということは事実ではなかろうか。かような三点から、  
今回部落組合長、並びに促進会長の名をもちまして市に  
陳情があるわけでございます。

市当局といないまゝいろいろな仕事がいま積んでおそ  
非常にむずかしい問題ではあるうかと思ひますけれども  
も、切なる私たち地区民の意向を汲まゝまゝしてこの実現を  
お願いいたしたいと思つてあります。さらに船形、一中  
を中心にして、三つといった要望も出てあるうでございま  
すけれども、私たちは決して館野、九重だけを中心に  
やってもうたいという考えは持つておりません。

両地区々々ためにも市を考え方として三つといった館野、九重

地域の請願をえいとして十分御研究の上、一日も早くセ  
ンターを作りまして、地区民の要望にこたえていただき  
たいことを切にお願ひする次第でございます。

簡単でございますが、以上申し述べて皆さん方御理  
解ある御採択願ひたいと思う次第でございます。

(拍手)

議長(田中祿郎君)本請願に対する質疑はございませぬか。  
——な——と認めます。

本請願書と採択——関係当局に送付いたしますことに  
御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)異議なしと認めます。よって本請願  
書は採択されました。

日程第二、行政一般の通告質問を行ないます。

一〇番議員 廿田実君

(一〇番議員 登壇) (拍手)

一〇番(廿田実君) 御質問申上げます。

市長さんも昭和三十七年十一月三十日当選以来常に産業  
観光、教育を三つの重点施策といきまゝ市勢の発展  
のために幾多の苦難を乗り越えて努力されてきた点に  
ついては敬意をもつて感謝申上げたいと思います。

一かゝながら市の現況は厳しく池田内閣以来の高度成  
長経済政策のもとに日本は大きく躍進したも  
の館山市勢は地域格差という消費経済の大きな矛  
盾に遭遇し理想とは逆に努力のいかにもなく人口は減  
少し産業は低迷し教育施設は老朽化し市民生活  
も大きく圧迫されてゐるうてゐます。  
まことに私も残念なことでございます。



私もニライの問題につきまして、過去数回にわたって、質問をしてきたところでございますが、一か一かから今回、市長が任期満了を目の前にして、ニライの点について、さらに具体的に明確にしていくことは、これまで、市政の区切りを付けるという意味において、非常に善い義があると思います。私は、そういう面から、具体的な事項について御質問申し上げたいと思っております。本間市政になつてから、市政の長期計画がなく、市民待望の都市診断の結果が、印刷物として発表されただけで、その具体策が、いまだに明らかにならずに今日に至っております。その間、昭和三十五年、前任市長のもとで立案されたところの五カ年計画も、昨年をもってすでにその期間を終了してゐるわけでございます。従つて、二、三年間、遂に長期計画がないままに市政を



終らせる結果になっているのでございますが、近代政治に  
おいて行政でも同じでございますが、高度に発達し  
た文明の中で特に著しい歴史の变革がもたらされて  
あるときに五年なり十年なり長期的展望のないものは  
すべて無価値に等しい存在であらうかと思つてであ  
ります。二う意味において過去において都市診断の  
運用について、構想と十萬都市構想の内容について  
二回だけ通共質問まいりましたが、今までの二う二点に  
ついては、納得いかないで、二う点について時間、限ら  
れた中で次の六点にばつて御質問申し上げたいので  
ございます。

結論だけであらうでございますので、明確なる御答  
弁をも願ひたいと思ひます。

第一は現在、市長は任期満了について十萬都市構想

を持ち続けてゐるのか。それとも年々減少してゐる人口の推移にあらうめてゐるのか。はつきりさしていただきたいと思います。

これから進むところの館山市が十万都市構想を持つか持たないかによつて、交通水道衛生教育等とはトめます。その面で十万都市と現況の五万都市では半分の開きがあるかもしれません。従つて五万と十万を基準にしているところの行政につきましても、根本的に違ふわけでございまして、そういう面については人口の推移というものをはっきりしておかなければいけないと思つてあります。

行政を施行するには人口の把握もできないようでは、どんな時代も政治でも政治をつかさどる資格はないからであります。

第二点は産業の振興についてであります。昭和三十八年

一月二十八日、議会にて市長就任の所信表明がございました。  
第一点に産業の振興、次に観光、教育の施設充實を市政の重点としていきたいということと述べております。  
毎回の施政方針の中では、産業、観光、教育を重点として施策を講じ、更に強調しております。一か一産業の振興は、そればかりではなく、ほとんど実績が上がっているが、率直な現況でございます。

国勢調査による就業労働人口を見ても、総体で昭和三十五年が二万六千三百十八名でございます。

五年後、四十年十月、この数字は、就業安定所において集約したところの業務内容一覧表というところから抜いた数字でございますけれども、就業労働数が二万六千七百二名になっていないでございます。

わずかに五年ではございますが、労働者が三百八十五

名一が増加してはいないわけでございます。

さらにその内容は公務員が増加が最高で四百九十名増加しております。

さらに産業の花形ともいわれるところの製衣造業ではわずかに三十五名の増加が見られない。建設業でもわずかに五年間で増加は五名でございます。その反面産業の中心である農業では逆に全体で十七名ではございますけれども減少しておりますのでございます。

商店従事を見ても五年間、労働者数に変動のないことは明らかであり、現在では産業の衰微が熊山市についてはいかなる点においてもいってはいないかと思っております。この点についてどうしようにも考えになっておるのか、ぜひともお伺いしたいのでございます。さらに農業について最近農地や転用が多いことが目立っております。転用により

第三次産業より第三次産業の次元う高い事業に利用  
されるならば心配ないうでございすが、今述べたように  
ミラーの方面の産業が停滞しておるときに三十五年に転  
用件数が七十七件であつたもうが昨年では二百七十九件  
にも上昇しておるうでございすが、

転用面積についても約五倍の百一反歩に達しておる  
うでございすが、また専業農家、第一兼業農家が  
大幅に減く、第二次兼業農家が農家戸数の五〇%  
をわずかでございすが越えてゐるうでございすが、  
二つらに對するところの対策をこれからどうしように  
ていつか  
その点についてお伺いいたしてございすが、

次に第三点として観光についてお伺いいたす。最近、  
館山市においては第一次産業の農業、漁業の斜陽化に伴い、  
前述  
一たびごとく第二次産業の工場誘致がままならぬ中では

観光に対する期待は非常に高まっております。でございます。市長さんも特にこの点については力を入れておるまうに見受けられますが、この点については十分に考えていかねければならない点が多いのではないかと思っております。

すなわち最近まとめられたところの観光診断でも明らかにことく観光客の増大にもかわらず、受け入れ態勢ができていないために実質的な観光収入が増加していないことでございます。県税に占める飲食税は安房郡が県下で最高でございますが、これは鴨リ、白浜の大きなホテルによって占められていることは明らかでございます。この点を裏返すと地元の観光収入はムドだけで生活というおすだけで収益を上げていないという数字が出ておるのでございます。さらにこれに関連して

重大なことは、観光部門の中で市民が大きな迷惑をこうむ  
つてゐるやうでございます。

時間がないので簡単に申上げますが、まず夏う物価が  
けたはず以上昇り、市民生活が圧迫されてゐるということ  
であります。

第二に夏う交通が麻痺してまい、交通事故対策をばじ  
り地元う交通事情も不便をきたし、この面からくる  
ところの精神的また物質的な被害というものは、著しい  
ものがあると思つてあります。

第三に夏になると水の利用がほとんど制限せざるを得  
ないであります。

第四に教育、情操の面で青少年に与えるところの有  
害きわまりないものがございます。

青少年は次代をになう宝でございます。



こゝなくして未来の幸福な発展もあり得ないのであります。このままでは市民の犠牲ばかり高まり観光収入によつて市民生活が高まるということとはほとんど望めないやうでございます。

私はこの一た点について再検討を加える必要があるやうではないかと思つておりますが、この点にかかち考へにならうか教えていただきたいやうでございます。

第四点は教育問題でございます。前回通告質問もございまして、内容については省略いたします。

従つて先般教育委員会でおさした学校統合案を中心に御質問いたらないと思つてあります。

先日の質問で三十五年以上なつてゐるところの木造建築によるところの学級数、兵舎の改良、校舎の十五年以上の教室数と合せて全体の五五％もあるということに答弁



をたわけてございますが、その政策の方法については何ら見  
通しが立てられておらないように思うのでございます。  
そこで、今般おっしゃるところの学校統合の要因の三つが  
重点のうち一つに見童数の逐年減少が基礎となつておるま  
さに、法令別就学予定者数も減少傾向を把握して  
おりますが、この点において、市では現在、人に自然動態  
によるものでなく、社会動態によるものであることを同時に  
結び付けて考えて、いかにお伺いいたしてございます。  
昨年の人口の社会動態は、三百三十五名の減少でございま  
す。自然動態については、逆に二百七十名の増加なのでご  
ざいます。それ故、十方都市構想と切り離しても、産業、  
観光の振興が少いでも進むならば、逆に年間千名から  
の人口が増加し、学校の児童数も大幅にふえること  
が、予想されるのでございます。また人に減少傾向に

ありながらも、北条・館山地区だけは常に著しく増大してゐるところの現象がすぐに見られております。

それにもかかわらず新聞紙上に北条小学校の大陳情団が新聞に報道されています。それとこれは直接因果關係があつたのかどうかは知りませんが、北条小学校だけが改築が学校統合案の中に突如として現われてきたのでございます。

私は房南中学校とともに北条小学校の改築が早急に必要なのは、再三指摘をして参つたところでございます。しかし今日では北条小学校とほとんどかわらない程度の老朽化校舎が市内に数多くあるのでございます。

それ故北条小学校の改築を行なうにつきましては他の五五％の老朽化に対するところの総合的改築計画を立てらる中で行なはるゝが行政の常識であらうと

私は思うのでございます。それでなければカチない地域や陳情をしない地域は老朽校舎が依然として解消されないで放置されてしまう結果になることからでございます。私は北条小学校の關係に立っても、こんな方法において政策するのでは非常に迷惑ではなからうかと察するわけでございます。ここに都市計画と合わせて総合的な計画の中で公正な方法において、教育の問題を処理していく意向があるうかないうか、この点についてお伺いいたしたいと思っております。

第五点は福祉の問題でございます。

市民生活のバロメーターは所得と物価の指数によつてまゐりますが、それにおいて昭和三十五年で集平均が十万七千三百円になつております。

館山市の平均は九万六千五百円であり、平均においても

一、八、百、月、も、<sup>低</sup>、い、う、で、ご、ざ、い、ま、す、。

政府の所得倍増政策は非常に高らかに叫ばれてお  
ります。が、館山市民にとっては、こ、う、い、う、の、面、に、お、い、て、あ、ま、  
り、や、く、が、あ、る、と、は、い、え、な、い、う、で、ご、ざ、い、ま、す、。

今日でも最低で県平均より低く十九市の中では、ず  
っと下にその所得額が位、一、て、お、る、ま、う、に、同、が、わ、よ、ま、す、。  
その上、生活保護世帯数についても、昭和三十八年に平均  
三百世帯であつたものが、本年八月末現在では、三百八十  
世帯に増加してゐるうで、ご、ざ、い、ま、す、。

交通事故数も二三年來横ばいでは、ご、ざ、い、ま、す、が、毎年  
大人乃至八名程度、死者を出してゐるうで、ご、ざ、い、ま、す、。

犯罪件数も増加、一、中、で、も、窃、盗、傷、害、罪、の、件、数、が、著  
しく上昇してゐるうで、ご、ざ、い、ま、す、。そうして、夏、季、に、お、き、ま、す、。  
と、こ、ろ、で、青、少、年、の、不、良、化、と、犯、罪、が、二、三、年、來、極、度、に

増加してゐることでございます。

青少年相談員が発足して以来一所懸命努力しておりますが、ニローな社会構造からくる深い底流を持つたところの流氷に対しては、ほとんど追いつかないというのが現状でございます。

ニローて見てきますと、市民の身が回りはまわってよいものとは言えないのでございます。

市長は産業も観光も開発と称して神戸、島や館山、彦根に立ってなごを歓迎しておりますが、現実性うない構想や、たとえ現実性があつても、市民生活と直結して考えていないと、ニローな面において困るのではないかと思つたのでございます。

市長さんは名譽なこと、二三日前に国会で明らかになつたように、総理大臣が昨年の収入が六百何十方というこ

とが申告されております。そうして、市長さんは昨年の館  
山税務署に申告された額が新聞発表によると、幾らかぞ  
れを上回っておりますように見受けられますが、全く名不  
なことでございまして、カーナから私はここでもって、館山市  
に納められたところの税金の申告の中でほとんど勤勞  
者一人が三十万前後の所得の人が圧倒的に多いという  
ときに、こういう低所得者や市民層の生活も十分に考  
えて市政にたずさわっていただくたいと思つてわけでご  
ざいます。その意味においては、みなさん外聞にとらわれず  
に誰めていつていただくというでございしますが、この点について  
あまり施策が打ち出されてないように思いますが、どうも  
うにお考えになるか、お伺いしたいのでございます。  
最後になります。本間市長の姿勢について御質問  
申し上げたいと思つております。



以上のように現況の市政は容易ならぬものがあります。  
私も従来にまゝ市長さんとともに切磋琢磨して市民の  
生活向上に努力していかねければならぬことを痛感して  
おるわけでございます。一か一ながら市長さんが二三年長  
期計画を持たないで市政に参与しなことは館山市の  
市民、政治に大きなマイナスを招いたもうだ。その責任の  
重大であることを指摘したいわけでございます。

特に最近九月になってから、地方新聞に次期市長選挙  
争いの団体、○○部落、○○講習会等の会議の席  
上において、勸義がふさふさという形において推薦を決定さ  
れたところの報道が幾つともなされておるわけでございま  
す。その数たちなみに調べてみますると十二団体が報道さ  
れてあるわけでございます。わずか一月足らずでござい  
ます。

もしもということもないと思ひますが、この種の席に市長  
が同席して推薦願った點、さらに従来は慣行からいつて  
お祝い金だとか、そういうものを出すような会議の席上  
であつても、市長の發言なり、さらには言動によつて因  
果關係がもたらされるというようなことがありますと、  
これは大へんなことになるわけでございます。

私は賢明なる市長さんでございますから、この一は  
ことはないと信じております。

一かー私は、この一は事前運動とか、選挙違反といふこ  
と等は別にないまゝして、この種、政治団体でもないときに  
は、公共的性格を持つところ、団体や講習会において突  
如として推薦が出されたといふことは、市長自身、その勢力  
中に、市に長期計画がないのを幸ひに市長に対して  
何か推薦するといふことによつて取り立ててもらえる。



てははいかという。そういう感じを市民に与えておるからが  
はなからうかと思ううでございします。裏を返せば市長が  
権力者だから自分意思がそのまま行政と直結して行く  
のだという気持ちが胸の中にあるうてはいいかというふ  
が伺わゆるわけでございます。

こころなものがもーあるとすれば私は今日、議会民主主義  
の中において重大なことであらうと思つてあります。

日本国憲法は第一条で主権在民を規定しております。  
市長も市民を代表しますが、議会も市民の意思を行政  
に反映する最高機関なのでございます。執行者は常  
に議会より承認を得てから行政執行に当るものが原則  
になっております。

種々の問題について対外的に行なわるところ、新聞  
発表さらに各種団体で発表さるるところ、諸施策

が非常に多いという事は、三ノ一の意味において、  
議院民主政治の成てまえからいつてあまり好ましく  
ないのではないかというふうに考えるのでございます。  
三ノ一のことが公然と行なわれておるといふことでござい  
ます。それから従つて私は先ほど申しましたことが  
必然的に生じてくるのではないかといふことであります。  
その結果として公明選挙都市宣言を公表したところ  
の本旨とは逆に進んでいゝるのではないかといふふうに感  
ずるのでございます。

現職という特権を乱用して正しい選挙ルールを踏み  
はずすことのないように私は要望するとともに私は現在  
こゝのような形でもって無秩序的に各種団体とか、そん  
なうなところでもって行なわれていゝることを安易に  
受け止めておるとすれば、ただ今申し上げました議会

民主政治という中で大きな誤まりをおかしているのでは  
ないかと思ひまゝて、二つについてはどううな対策を立て  
らるるか、市長が議会民主主義を守り公明選挙都  
市宣言とすふさわいような行動を取つていられる  
のか、その点について合せて決意のほどをお伺い  
たいと思ひます。

多少露骨な面があつたと思ひますが、よろしく御答弁  
のほどをお願ひ申し上げて質問を終らうといひます。

(拍手)

(市長登壇) (拍手)

市長(本間譲君) 辻田議員さん、御質問に對しまして  
お答えいたらないと思ひます。

私は辻田議員さん、ううに権弁家でもありません。  
いうことが或いは徹底しない面があるかもしれませんが

その点は重ねてお答えいたしたいと思います。

長期計画がないということでございますが、二ヵにつきま  
しては先般も協議会でちよつと申し上げておきました  
が、長期計画というのはなかなかやつてみるとめんどう  
なわけであらう。調査もります。船橋あたりでも  
三年もかかった。銚子でも五年もかかった。こういうこと  
であります。

私も私に任期中に私がやったことでありますから計画の  
案を作りまして皆さん方御了解を得て取りきめた  
い。三ノ一のこととで非常に事務の方にも督励しておる  
でございますが、主管課長の谷貝君はまじめで熱心で  
よくやられております。なかなか手が足りないので延びて  
あるわけでありまして大体草案ができてまいってこれを私  
どもがよく検討して大体十月のうちには議案の協議

会を開きましていろいろ御検討願うてきめていただきたい。  
三つうふうに考えておりますが、延びて申し分けないけ  
いども、さうううわけでございます。決してこれを等閑に  
付いたわけでもございません。大いにこれにつきまゝでは  
考えてゐておるわけでございますから、十月のうちに  
は発表ができますから、それで御了承願いたいと  
思ひます。

それから十の都市構想の基本の点である人口の減少。そ  
れから第二点の産業の振興は関連性がございしますか  
ら、両方まとめて申し上げたいと思ひますが、人口の減少は  
まことに遺憾に考えております。人口をふやすという  
ことが基本的にいろいろ考えるわけでございますけれども  
も、第一次産業でありますところの農業の所得が  
非常に低いわけにあります。これは非常に熊本市

も農業の方々が多いわけでもございまして、そういう農業の方々がその経済基盤の高い大きな産業方面にいくということでもあります。やはり所得の格差がある関係上、いつておるわけでもございしますが、二、三はなかなかむずかしいことでもございます。

就業者数を見ますと第一次産業におきましては三千九百四十三人ばかり減つておる。

第二次産業につきましては、千四百四十人ばかりふえておる。第三次産業は三千九十四人ふえておる。さつきお話ししましたけれども、第三次産業のサービス業とか、そういうものはふえておる。四十年度には卸、小売業の数が四千八百六十八名、三十五年が四千六百七十四名、金融とか、保険、不動産、そういう関係につきましても、三十五年が、三百五十四人、四十年度四百二十人

運輸及公益事業その他につきまゝでは三十五年が千六百  
五十四名が四十年年度二千百十名、サービス業は三十五年  
三千六百八十九名、四十年年度四千二百二名、それから公務  
員、につきまゝでは三十五年一千三百八十五名が四十年年度  
には千五百五十二名、三十九年一千二百三十三名、三十八年  
は三千九百四十八人、ふえておるわけでございます。

ですから、観光的に關係がある仕事というものは、伸び  
ておる。三十九年ということが言ひ得るわけでございます。

一から第一次産業、農業、林業、漁業、二、關係は  
三十五年から四十年比較しますと、二千九百四十三人減  
つておる。

一から第一次産業が減るといふことは、いいことでござい  
ませんけれども、結局、農業、近代化が進むというこ  
とも一つ原因となりておるのではないかと可憐います。



一面においては私は結構ではないかと思つてゐるわけ  
でございます。

いづれにしましても所得の格差というものが大きい関  
係上、やはり人には減る。こういうことになるわけだ。堅  
固基盤の高い方に流れていく。こういうことはどなた  
がお考えになつても当然なわけでございますが、一か  
そうであるから、それを捨ててゐるといふわけでは  
ございません。それにつきまゝいろいろな施策を講じてゐる  
わけでございます。

それから十萬都市構想はどうかというところでござい  
ますが、私としてはそれを長期計画の中に盛り込んでお  
りますが、あくまでもその線でいこうと考へてゐる  
ますが、それにいろいろ方法もござい  
ます。産業とか観光とかいろいろ  
ろろ面を振興をはかる。





は千二百万円、七百万円、増で二四〇%、増を示しております。

いづれは三十七年度は三千四百万円、四十年年度は五千九百万円、二千五百万円、増を示しております。一七四%の増を示しております。

青淨蔬菜 三十七年度は三千九百六十九万、四十年年度は億千八百万円、千百十一万、増で増加率が二七九%、米、方は政府、關係で大にともないですけれども、三十七年度は、二十一億九百万、四十年年度が三十一億一四二%、増、花、おきまして、三十七年度は四千五百万円、四十年年度は九千四百九十三万四千九百三十九万、増で二一%、増となっております。

たばこでございますが、これは三十七年度三千五百八十四万、四十年年度二千八百八十万円、七百四万円の減になっております。

鶏卵三十七年度六千五百万円・四十年度一億一千万・四千五百万円・増になつておりまして、これが一大九%の増長打つております。

りまして、農家の方は、収入はふえな。こういうことで、まことに結構なことと思つてあります。

それから公務員が増え、館山市にみえますと、御承知の

ようにゴミを集める運転手、それから水道関係、鳩  
山荘の調理士、消防署が増員したわけで、それから  
トンドの焼却炉ができますと、やはりふえていく。  
これは事業がそれだけふえて、市民に対するいろいろの  
施設が、館山市の方はふえてゐるわけでございますが、そ  
ういうわけでござります。

三番目の観光面で収入が少なくて、市民の犠牲が物価、  
交通、水等で現われておるといふことでござりますが、  
収入の面については非常に伸びておるわけですね。旅館  
における料理、飲食税、三十八年度においては二億三  
千万円であつたのが、三十九年度は、三億二千五百万円、約  
四割増を示しております。

四十年度は三億九千三百万円、前年度に比べまして二  
割ふえておるわけでございまして、三十八年度に対し、

四十年度は約七割増を示しております。これはやはり  
それだけ観光客が多くきたというふうなことで、年々増加  
を示しておりますが、販売額を調べてみただけですが、三  
十五年度、館山市における総販売の金額が七十四億五  
千二百万円、三十七年度は、百九億八千万円、三十九年度は  
百四十七億八千九百万円、三十九年度に比べて売り上げは上  
昇しておるわけでございますから、収入面やなんかは低下  
しておらないわけでございます。

夏の物価が高いということはなかなかむずかしいですわ。  
この問題については、需要が一時にきますから、需要、供  
給の関係もありますけれども、人的に調整するとい  
うことは、大きな冷蔵庫やなんか買って入れて置くという  
一手もありましようが、さういう一手もなかなか打てません。  
また商人の方々は、夏を日寄にやる面もあります。市

方も商工会議所とともにになるべく安く売ってもらいた  
いということで指導はしてあるわけですが、高の面  
あることは遺憾でございすけれども、この点につきましては  
はいろいろ検討して参りたいと思つてゐるわけですが、  
それから教育施設の老朽ということでもございす。この点に  
つきまゝでは、私も本当に深く考へてゐるわけですが、  
すが、現在教育委員会で調べてもらつたんですが、  
危険校舎も不適格校舎で約四千坪、三二%という  
調べてあるわけですが、井田さんは五五%とい  
うのは調べたときが違ふかもしれませんが、危険校舎が二  
千二百六十二坪、一四・三二%、不適格校舎が二千八百  
三坪で一七・七五%、合計で四千坪、三二%、この  
二とに相なつてゐるわけですが、

館山市は財政が豊かではない、なかなか学校

施設につきましては、手回らなかつたわけでございますけれども、私は、三つ考えますが、現在、水道の方も大体目鼻がつきまゝな一応ある焼却炉も来月あたりできります。市民センターも来年にはできります。そういうことになるから、一応大きな面は済んで参りますから、今後はやはり、教育を主として考えてゐていかねければならぬと考えております。これにつきましては、教育委員会の方で大体検討しておるわけでございますが、一番老朽校舎でひどかつたのは、神戸小学校ですわ。これが皆さん御協力によりまして、鉄筋化でできたわけでございますが、現在一番心配しておりますことは、房南中学校でございます。

これは教育委員会におきましても、文教委員会を開きまして、来年度にはやりたい。私もやらねければいけない



と考へてあります。

それから北条小学校というふうなことで北条小学校も教育内容が果下でも優秀な教育をやつておられますけれども、学校の建物が非常に老朽つておりますから、これも今始つたことでなく、前から非常に要望があつたわけでございますが、これも教育委員会の方で取り上げて来年から敷地をまず求めてだんだんやつていこう。こういうことでございますが、私もその点については、教育委員会の結果でもって進んでいきたい。三つ、ふうふに考へておるわけでございます。

それから福祉の面で市民生活が低下しておるといふことでございますが、これは生活保護者がまゐつておるといふような御質問のようです。これは、かに大村が婦人が更正のために百名ばかりおるわけで、そういう關係が

ありまして、上ってくる面もありますけれども、そんなことでございます。

それから、交通事故とか、犯罪が非常に多くなったというところでございますが、その点はおっしゃる通りでございます。

交通事故につきましては、全国的に年々非常に多くなつてゐる。館山市ばかりではございませんが、館山市におきましては、昨年ですが、交通安全の都市宣言をいたしました。たが信号塔の設置とか、毎月十日を交通安全日と定めまして、或いは農協の電話等を使って、いろいろＰ・Ｒをしてゐるわけでございますが、今度十一月から二十日まで、全国の安全旬間が始まります。これに対して、もう、館山市としては、全戸に右側を歩いてもらいたいとか、酒飲み運転しないとか配って啓蒙してありますが、運転者はもちろんでございますが、歩行者が規則を

守らない。こういうことが非常に多い。ことに学生なんかに多い面が見らるるわけでございますけれども、やはり交通の規則の指導ですね。こういうことも現在やっておりますわけでございます。

御承知のように交通係を置きましていろいろやっておりますわけでございまして、事故の起らないようにいたしたい。それから犯罪につきましても犯罪も相当あります。私も、私も遺感に考えております。また責任も考えておりますが、青少年につきましても、これは議員さん、市長としていろいろお骨折りいたしますが、市には青少年係を置きましていろいろ団体と提携して対処してあるわけでございます。

それから六番目、市長は各方面に独断で構想を述べたりしてあるということでございますが、私は私が考

え方をえけり、市民に会つたときには述べて、市民の方々の御  
意見見等も伺うことが私として責任だ。三ついうふうに  
考えて決して議会を無視なんかを毛頭しておらなかつた  
わけでございます。

議会で承認を受けなければならぬことは承認を  
得ます。また無責任なことは決していつておらないうわけ  
でございますが、市長と一より構想については、これはたえ  
ずいつておるわけでございます。それ、私は市長として  
市民に対して責任だ。三ついうふうに考えておるわけ  
でございます。

それから、明かるく正しい選挙都市宣言にふさわしくない  
行動がある。三ついう御指摘でございますが、私も市長  
たる以上、明かるく正しい選挙についてよく三つ考えてお  
りまして、三ついうことを起さないようにならうと思つて

おるわけでございます。

「カーナバラ」現在推薦というところがいろいろお断がございまして、私が、私のようなものでも伺こうで推薦していただくとございますから私もありがたく受けておるわけでございます。それ以上うことはございません。

簡単でございしますが、以上申し上げて御答弁にえさしていただきたいと思ひます。また何かございまして。

(拍手)

「一番(辻田実君)」私がいろいろと質問したわけでございすけれどもあまりポイントが合っていないわけでございます。カーナバラ具体的な問題をどうこうというところではございせん。基本的な点について三、四伺ひたいわけでございます。

市長さん答弁の中で二回目になるわけで申し分

たいけれども十萬都市構想というものについてもうひとつと具体的にできないか。

十萬都市を基準に処理なり住宅対策、水の問題、そういう点について一つ方向に進んでいく。きちんとして一つ方向がない。そういう点でもう少し、私う趣旨をくみ取って明確にしていただきたい。

それから産業の振興云々というところでもって市長さんの数字と私の数字が若干食い違つておるわけですが、いま一、三十五年度の国勢調査によるところの基準年度は、市勢要領に基いておるから全く同じでございます。

逐年なされておるところの労働調査、国勢調査と同じだということであつて、いま一、三が絶対数については、ほかのかわりがないのでございます。

農業が三千人減つてゐるとかサービス千五百人ふえてゐるといふことについては、数に違い過ぎるわけでございますけれども、この点については、その後市長が申されておりますように、所得の面が問題なんですけれども、経済企画庁で発表されたところの消費价格指数についても、食料品と教育が五年來一〇〇％を越えるところの上昇率を示してゐる。特に生鮮食料品については、二〇〇％に達してゐるといふことが明らかで、そういうものと断片的に上げられても私も非常に困る。総体的に果物の総務課で調べた税金による逆算方式算定額でございますが、市長さんのおっしゃるまいなように三十五年度におけるところの所得五十五億といふことについては、一致するわけでございますけれども、三十七年度については、七十八億、この上昇率はわずか二・三％。



日本が経済は毎年所得において五%から八%の上昇率  
を示してゐる。

産業所得については一〇%を越えて世界的に誇つてお  
る。そういう面で三十五年から三十七年度にかけて一  
五%に達してゐない。こゝ所得は物価指数の五年間  
の指数は五・五%大体年々上つてゐるわけであつて  
そういう点については絶対数で食い違つてゐる。こゝ点に  
ついてはもう少く館山市全体という中で考えてゐた  
きたい。

こゝ点については特に御答弁は必要と一せんが、そういう  
面についてさらに考えてゐたきたいというふうに考える  
わけであつて、先ほど食い違いの点は、そういう  
点にあつたことをここで明らかにしておきたいと思つたわけ  
でござります。

教育についてですけれども、教育委員会の方に関係があると思いますが、市長にも伺いたいわけですので、統合案には減少してあるということとでふえないうらう。学校は規模を小さくしていかなければならないということとはつきり出てある。これは事務局案にしても市長と教育委員会が違うことを言わねばなる。

こういう案が出てきてあるということとは、何と解釈していいかわからない。

こういう点については長期計画がないという中において根本的な矛盾が出てきてあるというふうに思いうわけてございます。

今度おさめた統合案については、項目の第二項になっておる数字が年々減少していくということについて、市は今申されたところの市勢振興という面からどう考えてあるのか、

その点についてはどう程度かと思ひ、疎通があつたか、簡単に  
よろしうございますので御答弁願ひたいと思うわけござ  
います。

教育の老朽化の問題については、これは老朽化ということ  
申しわけで木造建築で建てられて三十五年、兵舎に  
ついては十五年以上、たつたものは全体が五五%であると  
いうことも前回教育長から答弁があつた。

不適格校舎ということになりますと、市長がおっしゃる  
ように三二%であらうと思います。

不適格とらしく印をおさしたものが三二%あるということ  
政治問題だ。なお、三十五年以上たつた校舎、兵舎は  
十五年以上、これは五五%ということと両方を考えなけ  
ればならぬ。

北条小学校も建てなければならぬと思います。

北条を建てるという事については、那古館山、西畑、そう  
いうかわらないような学校に対するところの配慮、政  
治を司うところ上で教育の機会平等という様な点  
から考えるとときに、断片的に北条小学校だけ悪い。そ  
うだという事は北条小学校が各區民において迷惑  
だと思ふ。その点については五五％前後の全体的な構  
想の中で、まず北条、次は那古館という事と議  
会の審議を通じて明らかになっていかないと私は非常にお  
かしいものになってくる。

陳情すれば陳情の力強い弱いでそれをきめるといふこ  
は教育の機会均等が根本的にくずれる。

その点について、教育長の方からでも答弁いただきたいと  
思います。

五番目につきましては、大体一致してありますので、最後

点について私は市長が構想を述べるものには一向さしつかえないということでごまかして私は政党政治の立場政治の自由という立場から構想を大いに述べる。これは結構でございます。

一カーながら構想と具体的な基本問題。そういうものとは若干違ふ面があるのではないかと。学校にしても五五%に達する老朽がある。それについて北条をやるか西岬をやるか。これはやらなければならぬ問題でありますから。これを取ってもさうつかえない。順位を付けるのはむずかしいと思います。

教育問題にしても同様。道路にしても同様。農業、さうにはほかう産業についても同様。館山市政は抜本的に仕事をやっていかねければならぬという中において市長が北条小学校の陳情国がきこから確かに悪い。ここは

なかなければならぬ。それはわかる。だからあなたの方が  
まなからう。そうことは具体化しなう。

議会等においては云々ということはどうか知りませんが何  
とかいまいよう。二うう個々事について約束或いは

手形趣旨にせしめようという言葉から手形的な公約  
これは非常に市長の権限を逸脱するものではなうか。

構想は該構です。構想というものは教育全体の本道  
を解消するとか、道路交通をどうするとかで個々の

具体的問題についてはどう学校をよくするとかいう  
ことは構想ではなくて、市長の執行権限の中に属す  
る問題であつて、そういう面について軽率な面が多  
いのではないか。従つてどこをやるかという事について

議会に付して了解を得てからやるといふことが根本だ  
ぞういふ点で私は議会軽視という言葉の中に表現した

わけである。そうして、そういうことが行なわれたいということがある。ほい申しまゝに推薦云々という形の中で現われてくるわけである。

そういう点は、若干はきちがえてある。ではないかというふうに思ひまして、その点を明らかにしたい。さらに付け加えて、市長さんの答弁を取り上げて申し分ないけれども、推薦して下さるということはある。二はまたない。そのことも結構です。一カー、政治団体からいざうす。

民主団体、地域団体、市から補助金を受けている団体。そういうものが、やることについて、団体の規約の中にそういう規約がないものでやることがおかしい。私はそれを云々ということば申し上げません。一カーながら、市政の中で、そういう推薦団体にのけるところ、補助金の問題、地域における経済的な問題については、何らう約束することか、意見表



示があつたかどうか。そういうことはなからうと思ひますか  
 そういふことによつて推薦するとかいはないとか、いろいろ  
 面について全然関係がないのだということを私は言明  
 していただけるかどうか。言明しなくては結構で  
 ございますけれども、この点を最後に明らかにしていただ  
 きたい。以上う点について再度質問申し上げる次第で  
 ございます。よろしく御答弁うほどをお願い申し上  
 げます。

市長(本間 義君) ただ今御質問の中に人に合せて  
 学校をなんかするのやという御質問でございます。け  
 れども、十萬都市というものは構想でございまして、今か  
 らできるかできないかはつきりわからぬものを、学  
 校やなんかいろいろなもの、その線であるということは  
 私にはできないと思ひます。一か一、そういう方向では

いまますけれども、現時点におきましては、水道の施設に  
も、学校の施設にても、倍の施設を今計画してすぐ  
やるということは皆さき方も御納得ができないと思いま  
すが、そういう方向でやってみよう。一つの構想でど  
ごいそうですが、構想に向かつて実現とはかるべく私も考え  
まゝで皆さん方の協賛を得まゝで推進して参りたいと  
いうふうに考えております。

それから所得と関係はお話がございまゝたけれども、  
これは経済の動向によりまして、高度の工業の発達  
するところと、こういうところではお考えになつても無理  
だと思ひます。無理だからといってこれを放置する  
気持は毛頭持つておりません。少しでも努力をして  
向上させていきたいと考えております。

それから、学校校舎等と関係につきましては、私はこれを

でも教育委員会に私がいろいろしつこくあつたといふことは言いません。あくまでも教育委員会がやることでございましてから教育委員会を考へ方によつて私は話がよければ検討して意見を述べて参りたい。陳情があつたから先にやるとか、どうするとかいふような私も市長になりますと、やはりなつてみますとやはり金市民に公平な立場で望まなければならぬことは私としても十分考へておりました。決して陳情があつたから、それをすぐに取り上げてやるという軽率な考へは毛頭持つてありません。見ようによつてはいろいろ解釈できると思いますが私はかりでなく市にはいろいろ機関がございまして機関にもはかりまして相談したりしてやる。たまには北条小学校が陳情に参りまして長い間、縣心算であつたが指摘されたように北条小学校、本当に老朽校舎

ですから、なまたま教育委員会の方でもやっております。PT  
Aの方でもやっております。それは新築をいた方がい。

ーかながらする。ーないは市長として議案を提案と  
議会の方皆さん方承認がなければ執行できないわけで  
ございまして、そう無理なことは私は決していたさなかつた  
わけでございます。

推薦に封じまして云々というところでございますが、全く私は  
推薦団体に封じて補助金とどうこうとかいって  
えは、こゝで聞いても絶対ありません。

そんなけちなことで市長はやっておりません。

ほか、話になりますけれども、市関係う入れの問題で  
すね、大きな問題がありまして、組合水道うことでござい  
ますが、十社も、実は希望者があつた。そのうち八社に  
ーぼつて五社にーぼつた。いろいろ話もありまして、けい

私は市役所以外に業者には絶対会わないという信念で会っておりません。私は身をもって誤解のないように対処してすべてにそういう考えでやっておりますから今う推薦云々で私がどういうことをしてやるのかということ覚えは絶対ありません。あつたらいつて下さい。そんなけちな考えでやっております。

・教育長(押本穂逸君)校舎の改築の問題で申し上げたいと思いますが、市内の校舎は先ほど市長が話さへましたようにどうしても修築、或いは改築をせねばならない段階のものだが非常に多いわけでございまして、二つについては、一応文部省乃至県等では危険校舎と不適格校舎、二ついう二つのものについて、それらが改築に際しまして申請があれば補助金を、そう額が三分の一を支付するということになっている。

わけでございます。

危険校舎というのはどういふようにしてきめるかといふますと、果て五年ごとに検査がこらぬまゝで、学校が腐朽程度合を傾斜度とか破損度とかいふいろいろ事項があるそうです。が、新築の校舎が一万点、千点数を基礎にして減点法できめていく。補助金を交付するは現在では四千五百円以下うとこゝに補助金を交付する。こゝういふことになつておきます。

不適格校舎といふのは、軍用建物をそのまま移築した建物うことを不適格校舎といふわけでございます。軍用建物を持つてきたときに、学校建築に正常に使えらうに改築したもつは、こゝういふものになりません。

くらかつたり教室が狭かつたり、こゝういふようになってゐるを不適格校舎、こゝういふことになるわけでございます。

先ほど市長が申さるまいかというに、市内の校舎がどう  
いう危険校舎乃至不適格校舎というふうな立場に  
あるものは、改築をなるべく早くお願いしたいものでござ  
いまして、それが全坪数で三二・〇八%、約三分の一が、  
そういうことになっておる計算が出ておるわけでございま  
す。その中でも、中学校では房南中学校、一中、二中、小学  
校では北条小学校、東小学校、こういうところが比較的  
%が多いところでございます。

今後改築等に当たりましては、委員会でも、それらの  
ところを十分考え、さらに危険度、不適格度の高い  
ところから、順次、計画を立てて、解消していくたい  
という気持ちで、今いるわけでございまして、以上お答え  
申し上げたいと思っております。

一〇番(辻田実君)残り時間も五分足らずになっております。



うで、簡単に一言だけお伺いしたい。その前に市長さんの方  
から市政は平等にということと、今度推薦とか、そういう  
問題については何ら干渉はないという強い表明の言  
葉がございまいないで、その点については私もそういう形で  
つていただきたいということ。ほかの点にいろいろあるわけ  
でございますけれども、長期計画の早期実現ということと  
確約されておりますので、それに期待して一日も早く具  
体的に公表されて今、申し上げまいなような誤解が、各  
派布さるることのないように私は要望したいわけでござい  
ます。最後に一点、教育委員会に対してでございます。それ  
も、いろいろ中学校、統合の問題から北条小学校の  
建設という形が打ち出されてきておりますけれども、そ  
う点について市長が答弁。その他で聞きますと、市長  
の方で構想になり、さらにには意思統一というものが十分

てあるというふうには伺われない。

私は今後北条小学校の設立に当たっては、他の三二%の危険、不適格校舎さらに老朽化が著しい半数以上の学校について、全体的な見通しが立てられている中で、やっていかなければどうか。構想ですから、具体性はおりませんから、時間がございまして一言御答弁いただきまして打ち切りたいと思いますので、簡明に御答弁をほどをお願いいたします。

教育長(押本禧逸君) 先ほど申し上げましたように、校舎改築、修築につきまして、ただ今、御趣旨を私も、そのように承知しておりますので、老朽度、或いは不適格度、そういうものや強いものから一挙にかなかなかできませんので、そういうことを中心にして、相手を練りまして、将来執行できるようにお願いいたします。

ございます。

議長(田中祿郎君)以上により通告質問を終わります。

午前會議はこれにて休憩いたします。

午前十一時四十分

休憩

午後一時二分

再開

議長(田中祿郎君)午後、出席議員數 二十六名。

休憩前に引き続き會議を開きます。

日程第三議案第五十号、五十一号を一括議題といたします。  
二、際申上げます。議案第五十号乃至第六十二号の

各議案の内容説明は去る九月二十八日の會議において  
終了しております。本日はただちに質疑を行ないます。

一、番(辻田実君)まず第二条の二項の一、さらに四、五、三項

にありますが、けれども一番最後に「場所及び結果を証明する書類」これが二カ所ほど出ておりますけれども、証明する書類、これはどう程度よりもうを意味してあるのか、もちろん労働組合の会議の議事録でございますから組合の思想、こういうものがあつて、どう機関が認めるのか、どう程度で証明ということとで公平委員会が基準になつてあるのか、この点についてはつきりしておかないと問題が起きるのではないかと思つて統一に申し合はせたいものを、この程度でというものが明らかになつた方がいと思つて、その点をお考えをまとめて御答弁を願つたいと思つてます。

秘書課長(小倉登男君)お答えいたします。これは辻田議員が申さないうちに議事録というふうなことになるわけですが公平委員会規則におきまして細部にわた

って判定しなけければならぬ。でございしますが、非常に登録  
に関する運営がむずかしい問題でございまして、現在  
国々人事委員会においても二ヶ月が未交付であるという  
ような状態で我々もそういう交付が決定されたならば  
もっと明細に検討いたしまして最終的に決定したい  
現状におきましては細部にわたる書式を決定というも  
うはまだ、私どもの方でもございましてありません。

・一番(辻田実事君)従来より条例で参りますると登録の  
機関が市長であつたわけでございしまするけれども、こ  
れについて、一応館山市の公平委員会規則をなします  
と職務に関する条件ですか。こういうものについては公  
平委員会において認定する。こういうふうなことがう  
ちわつておつて、今年度よりも、市長ということとはず  
して直接公平委員会という形になつたところが改定う

ポイントでもあり、その点が改正うふところではないか。その他については、従来とそうかわらないように思うわけな  
 んであります。二点について従来の慣行とか、そういう  
 ものがどうまうにかわつてくるかという点について問題な  
 いかどうか。市が取組組合と中間にどう程度う話合  
 いたさいたすか。全然話がさしなけければさしないで結構  
 でございしますが、従来が公平委員会条例の中において  
 も、二、三の問題を認定したり、取り上げる事項があ  
 るわけであらうございます。そういうふうなことに  
 ついて、二、三、四、五年来、公平委員会について取り上げられ  
 て、議事録に残さしておるかどうか。そういう問題と  
 取り上げたことがあるうかないか。二点御質問申上  
 げたいと思います。

秘書課長(小倉隆男君)第一点は公平委員会において、そう

いう点について取り上げられたことはございません。

取員組合という点について交渉があつたかという点でございますが、細部にわたりまして交渉はまだいたしておりません。一か一ながら、その他も点につきましていわゆるイレロハ十七号条約批准に伴いまして、地方公務員法が改正になりまして、そのために起ります取員活動、そういうような点について取員組合という話し合いは実施いたしまして、その廣席上におきましてイレロの憲章の十九条に規定してございますが、従来も慣行はお互いに尊重していかねければならぬ。あくまでも尊重していきなさいという執行部も考え方でございます。

一〇番(辻田実君)公平委員会において今までなかつたということでございます。二つから公平委員会や任務、そういうものについてかなり公平委員会やあり方がかわってくる。



労働委員会的な性格を持つ面も出てくるのではないが、また、従来慣行が非常にうまくいつておるといふことで、それを尊重していくという答弁をされたわけであらう。いですが、公平委員会において、このような権限ですか。三ついうものを移譲した場合に現在、公平委員会の中で従来三ついうケースがないというところでスムーズに慣行が移行されていくかということ。もう一点は、労働基準法三十大条協定、時間外労働に関するところ、諸規定、三ついうものについて締結がなされておるか。聞くところによると、館山市は、労使間、話し合いによつて課長も主事も同一の時間外手当というところで払われている。これは労働基準法に違反であつて、三ついうものについて、今度そのまま公平委員会に移譲して行くということになります。すると公平委員会は法律に基いて厳正に処理しなければ、

くならないという二点になりますと、現在行なわれておる時間外協  
定に基くと二つ、時間外労働に対する労働の諸条件  
手当の問題、三つ、問題を一挙に解決しなければな  
らない。三つ、面も生じてくるのではないかというふうに  
思うわけでございますけれども、二つ、点についてはど  
うようになるのか、その点について具体的にお願いを願  
いたい。

秘書課長（小倉澄男君）大へんごもつともなことでございまして  
公平委員会の方につきましても、ただ今まであまりに  
そう、事例が少なかつたということ、これは本市だけでは  
ございまして、全国的な傾向でございまして、二つ、たび  
県下の公平委員会、協議会というものも、結成されていま  
し、さらに上部団体として、全面的な団体も結成されていま  
し、そういう点について、今までの方に対する反省

そういう意味で今後はもつと一ツかりていかねければ  
ならないという現われで、着々その態勢を整えてある  
ということが、実績でございまして、今後は、その点について  
あくまでも、状況に適合した公平委員会を作るべく努力  
中というところで御了承いただきたいと思ひます。

○一番(辻田実君)御答弁の趣旨というものは、わからぬわけでは  
ないわけですが、いまですが、バーカーながら、この条例判定が、ILの  
批准に伴うところの一連の改定であつて、ILの改定に  
伴う国際的な労働状況というものが、高度のもの  
がある。

東京で私鉄が止まるのは、大へんなさわざであるけれども  
ニューヨークあたりでは、あまり問題にならない。高度の  
労使関係労働運動というものが、なされてゐる。そういう  
状況でございます。

館山市においては現在より労使関係の中でいろいろ取組  
体の登録というものが公平委員会に移さいるということ  
むしろ取組組合の現段階における労働運動労働条  
件の維持改善について圧力を加えるような結果になる  
のではないかと、いろいろ思うわけですが、そういう面  
についても中央においても論議さるまいなと申し上げ、三  
う問題がもう少し時間を置いて取組組合と話を  
合。そう、いろいろが進められ、中央をまわするわけでは  
ございませんが、これも中央において、ILOの批准という  
のについて上から下ってきたと思いますが、そういう意味  
では公正な公務員制度審議会とかそういう形で各界  
の専門家に集まってもらって十分な討議をして  
いかないと生活に直結するところより労使関係の問題で  
あるので、そういう余格がなかったら、かどうかという点について

まずお伺いしたい。それとともに答弁の中で今、取負組合というものが温厚であるという形の中でうまくいっている中で、さうなつて問題はないのではなにかということについておりますけれども、一カーながら、こういう改正になつて公平委員会に移されるということになると、市長さん自身が答へておられたときは、違ふ第三者的機関に渡さるゝで、市執行部についても、この条例施行に当たつて労働条件勤務条件<sup>等</sup>についてももう少し整理をして出していかないと条例そのものはいいとしても時間外手当の問題、いろいろ特殊業務になざる労働協定、そういうものを労働基準法に即応し、その完全実施、その線まで達していった中でやつていかないと、公務員労働者とか、地方自治体の取負という二とであつても、また公平委員会に移行するからには、そういう

整理が、いま一步、市当局においてなされるのが至当ではないかと思つたわけでございます。その面についてあまり整理に扱われてゐるようには思ひますけれども、その点については、私、心配するやうな点があるやうな感じが、二点目として御質問申し上げたいと思ひます。

秘書課長（小倉登男君）非常にむづかしい問題でございます。まして答弁に困るやうでございますが、エシロの批准によりまして、このやういふ登録条例、その次に提案してあります行為、制限本条例が制定されて、それを細部にわたりますて検討して参りますと、いろいろ点でひかかりがでてくることは事実でございます。そういう点につきましては、職員組合等とも話し合ひはいたしまして、お互ひによく話し合つた結果、本市は法律であるので、これに準拠して、この条例を提案しようではないか、一か一ながら、

我々労使関係が持つべき点と云うのは互いの労使慣行  
 というものは今後はおくまでも尊重してゐていくのだ  
 ということでございまして、そういう精神で我々は今後  
 ゑっていくのだ。さらに公平委員会のあり方につきましても  
 先ほど申し上げましたとおり、非常に手が回らないとい  
 うのと、語弊がありますが、これから研究いかにまいて  
 おくまでも公平委員会の事務を全うできるように、な  
 態勢に持つていきたい。以上、その点について了解願いた  
 いと思ひます。

一〇番(辻田実君)問題点もはっきりさしてあります。今  
 ような答弁の段階でこの問題について賛成とか反対  
 ということになるのか、かなり問題が出てくるわけでござい  
 ます。それによつても、一応、この辺でいろいろ質問が重複  
 してから回わりの点もある中で打ち切りなと思ひます。



公平委員会、制度、改善、問題、証明する書類の問題  
こゝういふ問題がびしつとさへるべきだ、規則など中央で  
考えてゐるからといふことでなく、地域の中で公務員制度  
審議会を作るといふことでなくとも、そういふものを慎重  
にやるなり、議会や中においても調査会なり、特別審  
員会を設置するといふ方向でやつていただきたいといふ  
ことを要望いたしまして打ち切りたいと思ひます。

・三五番(松本藤太郎君)議案第五十一号の方、具體的な  
面でお尋ねいたしたいんですが課長さんもおつてゐる  
とちり、館山市、取員団体は、こゝまゝい勞使慣行、私も  
そういふふうに取り取つております。

今までの団体交渉の条例の内容も知りませんが法改正  
正によつて五十一号といふものが出てきたわけなんです  
が、今までの取員団体の行動といふものは大きく判約さ

ておるのではないか。こういうふうに考えますが、どういふ  
 ような点がいばらいていつておるのか。五十一号で特に  
 第二条の点ですが、開かしていただきたい。

・秘書課長(小倉登男君)お答え申し上げます。こゝ条例に規  
 定してございます。通リ、条例の趣旨は、取員団体より専従  
 取員以外より取員、取員団体としての行動、これはすべ  
 ての点が入ると思ひますが、こゝからもうが、給与をもらひ  
 ながら行動することはいけない。一かゝり、その特例を認め  
 るのだというところで、こゝの特例は、地方公務員法五十五条の  
 第八項の規定に適合な交渉をする。休日等というこ  
 とで、規定されておりますが、現在まで、具体的にそれ  
 以外の日といひますと、いろいろことが起きてきます。  
 ちとえて申しますならば、取員組合等より役員選挙、こ  
 ういうようなことが今までも、昼休み等を利用して

おりまゝに、昼休みは当然やつていいわけですが、  
昼休みを超過してまゝて選挙が続行されたということに  
なれば、この法律に違反するわけがあります。なおさらに  
現機の問題といふまゝして、テックオフの関係でござ  
います。給料を収入役室から渡さぬまゝして、その後組  
合費を差引く行為が勤務時間中に行なわれれば  
この条例に違反というふうないろいろ具体的なあらで  
すが、そういうふうなことが直接すればこの条例には  
抵触するということでございます。

・三五番（松本藤太郎君）私もよく私員組合の中のこと、は、実際  
はわからないんですが、館山市の私員組合が非常に建  
設的なことも市長さんや市政に対して全面的にや  
らうとする。もう一つは、労使関係だ。そういう中  
に、今度法改正によって、いっぺんにこのように

選挙のときだとか、少数の委員会をやっておいて、たまにまたお昼休みをオーバーしたときでも、二、三に照らして、いけないや、ということになる。少数の委員、会でもやはり、いけないや。或いは、給料をもらって組合費を各人が、そこで出合うんでしよう。そういうことも、いけないや。こういうことになるわけですね。

三十分、休憩時間以外には、も、別、そうだとすると、非常に取員組合の行動というものを、一、二、三の結果になる。そこで、実際に運用の面については、少数の委員が会議をやつて、議決でも、そういうのは、市長さん、政治的な、雅量によつて見て、や、た、う、か、というふうな、思、う、

。秘書課長（小倉登男君）お答えいたします。その点に關して、ま、一、二、三、は、先、ほ、ど、か、ら、お、答、え、申、上、げ、ま、し、た、従、来、の、労、使、関、係、の、慣、行、と、い、う、も、う、を、重、ん、ト、て、つ、く、や、だ、と、い、う、

答えは、この法律は制定した場合にどうなるか。実際にやつた場合には抵触するのだということでございますが、あくまでも執行部といひまゝでは、そういうふうな場合には、今までも組合と一なるべく時間中にそういうことをやるといふことも、取員組合も辨けるように努力をして、こゝろなうであります。でありますので、その間三十分が一時間超過しても、そういうことについては、従来のあつてもあるので、目をつぶるということとは、どうかと思ひますが、そういうふうな方針を取つて、いふことという考へでございしますが、さらに月給や袋引き、こういうものについても、条例を設けねば、やつてもいいのだが、ということでもあります。そういう点も、将来の課題として考へて、いふことと思ひます。

従来、横行、そういうものは、あくまでも生かして、いふこと

さらに条例に明確にせよというたてゐるものにはやるような研究をしていただきたい。

このたび提案するから何もかもいつべんにやうてゐるのだというところは早急に過ぎてはイレロの本當の精神に反することがあつてはいけな。そういう慎重な考えをいかりまして今回はまず当座登録条例行為の制限条例というものを議決していただくまゝと。取引組合活動に支障をきたすということと二議案を提案いたします。

・三五番(松本藤太郎君)結構なお考えで是非そのようにお願いいたします。

そこでイレロの精神、或いは今後条例化していけるものは、条例化していただきたい。こういうことでございます。からいま一点お尋ねいたします。

取員組合も今<sup>度</sup>の法改正によつて非組合員の拡大によつて大きく影響を蒙つてゐる。ですから給料をもらつてその中から組合費を払うということ。これも本當はいけないや。議会ですから、そういうふうになつたらうけれども、もう一歩、誰んでエツフォア条例化、このことは是非やつていなければならない。これは人によりまして違法だということもあります。が、違法ではない。やるといふことはつきりなつてゐる。ですからそういう点をぜひやつていなければならない。

組合費も自分たちでやれ。いろいろな行動も会議も自分たちでやれ。そういうものを大上段にふりかぶつて、こういうこともいけなひ、そういうこともいけなひ、ということになると、法律でいばつておいて、取員の権利として認めてゐるものを認めていけなひ、ということもたくさんある。



三十大条協定にいても超過の問題にいても取扱う  
方で当然受けべき権利というものがあつた。それがない  
市や財政とかそういうことで一応取扱い団体はOKとい  
ふからというところであります。実際はいけない。  
そういう点もありますから法改正によつて一掃するだけ  
のものは一掃しなければならぬということではなく、当然  
受けべき権利が取扱い組合にあるのですから、こういう  
ものも、二、三機会に与えてやる。

そういうものがなければ真の法と精神というものは具  
現されておるとは思ひえない。そういう点でぜひこれを条  
例化していただきたい。

秘書課長（小倉登男君） ティーフオフィ件につきましては先

ほどちやつとふたつもありてござえますが、左アオフィに  
つきましては、昨年八月十五日の第一回より発効

以来までになつておりまして、バロス会計機によりまして、差引きまゝで、非常にスムーズに支給されておつた。

こういう法律が施行されるというところは、絶対にまかりならぬということでは、現在、態勢に持つて、いったわけではございますが、今、松本議員が言われたように、国、地方、市町村、その状況によりまして、労使関係というものも、地域差ということがございます。

特に館山市におきましては、事務改善などで、市民サービスをモットーとしておる現状におきまして、現在、やりおりまする月給をもう一つから、市の各課の職員が月給袋から組合費を差引いてまた袋にもどすという時間を換算いたしますと、そうために市民のための取務は停滞するわけではございます。

各課が十分つゞ停滞すれば、千課でございます。二百

分、二つことを考えたいときに、私たちが当初考えたいときは  
 かまわないうではないかという県下の人事担当者会  
 議におきましてもそういう意見をはいたわけでござ  
 います。それが、その当時は、エーの精神というものでつ  
 いて、無知識でございまして、そういうようなことで一応  
 は規則にのつたという現状でございしますが、いろいろ  
 状況を勘案いたしまして、将来、適切な機会にいろいろ  
 ものについて、本市独自の方法でいきたい。現在、研究  
 中である。なお、県下で組合費、テニスコ  
 ートを施行しておりますのは、成田市でございす。それ  
 以外はやってゐないやうでございす。

三五番(松本藤太郎君)ぜひ、そういう方法で実現してい  
 たいことを要望いたします。

二三番(中村省吾君)簡単なことでございすが、一、二回



もよくわからないうちに、こういう質問にも答えるわけですが、もっと具体的に申し上げますと、この条例を出して、そのことが取組団体に登録に關して義務つけるのか、どうなのか、逆の場合、登録しなかつたら、どうなるか、その点についてお答え願ひたいと思うわけですが、

それから、もう一点は、つきりさせておきたいことは登録は既成団体におきましては、九月十三日までですが、登録するということになつておつた。それがすでに期日は過ぎておるが、その関係はどうなるか。それから五十一号の中で第二系、第一項に「第五十五条第一項の規定に基づく適法な交渉を行つた場合」に「適法な交渉」というのは、具体的にどういふことをいうのか。以上、点についてお尋ねいたします。

秘書課長（小倉澄男君）私も急拠勉強いたします。御

満足、いけるような御回答ができるかどうか。非常に  
ややこしいのでございまして二重・三重に改正さしてな  
りますのでまず、一ない場合はどうなるかということに  
ございしますが、一ない場合も何うかわらないということ  
でございします。登録団体でないから市庁執行部  
はこれに対して交渉にたないのだということはない。  
あくまでも、一かー法律、解釈におきましては、登録  
団体においては積極的に言葉の表現が悪いくでござ  
います。が、積極的に交渉を受けなければならぬ。  
非登録団体におきましては、ある点におきましては、  
拒否する場合もあるというような解釈、説明もあると  
ころがございしますが、一かー私どもは、取組団体にはかわり  
がないわけでございします。で、登録団体と何うかわつた  
ところが、同じ気持ちで対処していきなさいということであ

ございます。

九月十三日までということですが、これは九月十四日にな<sup>た</sup>上げ部分が施行になりまして三カ月以内に登録をしなければならぬということもござりますが、経過規定にも説明がありますとおり、それが過ぎても登録を申請すれば登録を受けらるということでもな<sup>た</sup>九月十三日までに本来ならば、条例判定をして特に臨時市議会を招集願ひましてやるべきであつたかもし<sup>し</sup>ません。が、カーニしもあくまでも、私負組合で登録を申請するに場合についてのケ、いえるという自分から言ひ方になるかもし<sup>し</sup>ませんが、申請された場合にのみ、これをやるのだということ、さらに申請があつても公平委員会におきましては、それに対して審査して三十日以内に可否を通知すべ<sup>い</sup>という規定



もございます。それでたまに議会も月末というところで  
本会に提案すれば十分間に合うのではいかということ  
考え合はせまして、議会の答弁にはちよつとあやでござい  
ますが、そういうことさうにきくことに關しましては、取員  
組合等におきましても、話合いを十分いたしまして了解  
を得た上で本會議に提案し、次第でございますので、ま  
ろしく御了承願ひたいと思ひます。

それから適法な交渉でございますが、この交渉も五十五  
条にいろいろなつておりますとおりでございます。

いわゆる交渉におきましては予備交渉を持つのだ。

いわゆる場所、時間、申請目的、こういうものが適当  
な五十五条の交渉の規定に準拠してゐるものを適法  
な交渉と理解しない。こゝに思う次第でございます。

二五番(荻生田七郎君)ただ今う質問に關連して一五〇条

約う判定に伴うて八十七号、九十六号ですか。いわゆる  
 国族権、擁護御説明の中に于てオフの問題が  
 ありまして、かつて本市はこれをやっておつたが禁止  
 せられたと聞いております。一カー。今、御答弁では  
 国内法の判定によつて条例制定によつてできると解釈  
 した。現に成田市は于てオフをやってゐるとおつた  
 二は適法なんですか。違法なんですか。それができる  
 すれば本市も行なつたらいいと思ひますが、その点

詳

秘書課長（小倉隆男君）成田市がやっております。于てオフ  
 の条例は適法でございます。

地方公共団体にきましては、于てオフをするか、ないかとい  
 うことは政府にきましては、これを条例によつて地方公共団  
 体がそれぞれ地域の特長性というものがあつたから、条例

によつて地方議会がこれを認めるならばよろしいという解釈を下してあります。

成田市におきましては、そういうような解釈におきまして、市議会において認定して条例化したいという考え方は、当然市におきましても考えておるわけでございますが、先ほども申しましたとおり、あくまでも重要な問題でございますので、十分今後研究いたします。そういう事情ならば提案しない。そういう考え方でございます。

・二三番(中村省吾君) 大体了解いたしておりますが、もう一点、関係してお尋ねいたします。

第一点、登録に関し、何らさうつかえないのだ、かわりないのだという御答弁があつて了解いたします。ところで今後、取員組合が一步進みまして、自治労加盟した場合、自治労が一本で登録した場合に、その場合に非登

録であつた。仮りに登録しなかつた取員団体が自治労に加盟し自治労が一本で加盟した。その場合の見解はどうか。お伺いしたい。

秘書課長(小倉澄男君)自治労が館山市の公平委員会に登録団体として登録を申請した場合に登録団体としておそうく認められないということでございます。

一かゝ館山市の取員団体が自治労に加盟すること自由でございます。

・二三番(中村省吾君)二以上論議いたしません。深い問題に及びますので一言だけ申し上げておきますと、簡単に課長さんのおっしゃるようになります点があるかも。しれません。と申し上げますのは、今度うしろの批准にまつて二々条文にもありますように役員が取員でなくともいいわけです。

はつきりいつて執行委員長が市役所より職員でなくてもよろしいことになる。そうなるとその裏をかえせば自治労の委員長にその権限を移譲した場合にどうなるのかという問題がある。そうなると将来において課長さんか、簡単なことでもさうなように解釈できないむずかしい問題がそこに出てくる。そういふことがあるということを御承知願って最初に見解でよろしいと思ひますけれども、終ります。

議長（田中祿郎君）おはかりいたします。議案第五十号及び五十一号は討論省略原案となり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よつて議案第五十号、五十一号は原案通り決定いたします。

日程第四、議案第五十二号、議案第五十三号、議案第五十四号、議案第五十五号を一括議題といたします。

御質疑願います。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 議案第五十二号乃至議案第五十五号は討論省略原案通り可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よって議案第五十二号乃至第五十五号は原案通り決定いたします。

日程第五、議案第五十六号を議題といたします。

一、番(辻田実君) 不勉強で申し分けないでいますけれども、先般もううた条例の中にも学校安全共済会う条例がな



かつたので、ここで改めて質問するわけでございますけれども、  
私も市内の社会教育団体、福祉団体において、いろいろ学  
校の生徒、そういうふうなものを行事その他用に使うわ  
けでございますけれども、そういう場合に事故とかいう問題  
が起きて補償やなんかで非常に困つてゐる。先般  
も二つ点については、知事等に対して陳情し、ならぬ面  
については、学校安全会、そういうふうなものと連絡して  
学校行事なり、学校の中でやらふものについては補償  
になるけれども、学校生徒が地域の子供会、館山市の  
スポーツ少年団の大会でけがしたりすると、それに対して  
補償がない。市にもない。こういう点で問題があつて、これは  
市長でも、知事でも、学校安全の問題にしても、補  
償は十分納得するかどうかという点とをいってあり  
ますが、今度、大幅に値上げになつて、そういう問題がある



程度進んだら、そういう見込みがあるのか。その点について  
詳しく御説明願いたい。

教育委員会庶務課長(干場伊左門君)今の関係でござい  
ますが、日本学校安全会が施行令の中にありますが、学校の  
管理下におけるというところが入っているんですが、やっておる  
仕事は学校の管理下において発生したものと、ということに  
なると当然、この該当することになっておりますが、学校の  
管理下でなくて運動とか、そういうものをやっておったと  
いうことになる、適用にはならないというふうに考えられ  
ます。

一〇番(井田実君)関連質問になるわけでございしますけれど  
も、先般増額にまつて、給付額なり、給付内容の充実  
というものがあると説明を受けた。そういう点については  
わかっておりますが、十八月が千九月、法律改正でございま

しうけども、こゝ一本たうか。選抜制による掛金か。共済会加盟について、任意的なものなうか、この点について御答弁願ひたいと思ひます。

・教育委員会庶務課長(千場伊右エ門君) 小、中学校、こゝは義務制でございまして、保護者が二分之一、設置者が二分之一幼稚園になると、全額保護者負担。それから要保護児童も、国が負担する。こゝは三月だけ、設置者が負担。あと、教育長(押本禧逸君) 管理下というのは、学校、校舎内だけでなく、特に登下校の道路上においても、こゝは加わっております。大体、最悪コースでいつてゐる。きまつたコースでなければならぬ。遊ばないところであつたのは、だめ、こゝういふことになつております。

一、番(廿日実査) 安全会というものは、全国単位のもつてですか。



ありますので、喜ばれてゐるわけでございます。

議長（田中祿郎君）議案第五十六号は討論省略原案通り可決することに御異議ありませんか。

（「異議ない」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議ないと認めます。よって議案第五十六号は原案通り決定いたしました。

日程第六 議案第五十七号を議題といたします。

八番（望月照正君）ちっとお聞きたいんですが七十九号線の廃道後、処置はどういうつもりですか。

土木課長（新井重助君）お答えいたします。これは前々経過から申し上げますと、七十九号線は土地は隣接地主さんが全部寄付いたしまして作った道路でございます。六百五十号路線は同じ所有者から全部寄付を受けて作った道路でございます。右の通り道路を廃止

いたりますと、道路用として利用するものは、払い下げという面がでてくるわけですが、寄付を受けた当時登記してございますので、廃止後は前々所有者にもとずくというところで現在進んでおります。

議長（田中祿郎君）議案第五十七号は、討論省略原案通り可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よって議案第五十七号は原案通り決定いたします。  
暫時休憩いたします。

午後 二時五分

休憩

午後 二時四十五分

再開

議長(田中祿郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第七議案第五十八号を議題といたします。

一八番(西村真次君)二つポイントにつきましてお尋ねいたします。

まず第一が一六ページ十目諸費の二十三節市税等還付金  
それから一九ページ保健衛生費の大華用炉改修費、こ  
れに関連する質問であります。特に議長さんにお願  
いがあるんですが、二つ一踏ですと話がこみ合う恐れが  
ありますので、一つづつ質疑をお許しいただきたいと思います。  
す。

議長(田中祿郎君)よろしくござります。

一八番(西村真次君)お許しいただきたいと思います。

一文ページ市税等還付金の点であります。三十万円計  
上さしております。これはすでに還付が確定した金額で

あるかどうか、或いは今後が見込みが含まれているかどうか  
まず、その点についてお尋ねいたします。

市民課長(羽山房雄君)お答えいたします。今後が見込み  
額を含んでおります。

一八番(西村真次君)そうしますと現在までに還付の確定した  
額、それから二に追加する額、二は、  
になりますか。おわかりになりますか。教えていただきたい  
と思います。

市民課長(羽山房雄君)はつきりした数字はただ今手元に  
ございませんが、還付金でございますが、当初予算に  
おきまして二十万円議決をいただいております。

第一回補正におきまして四十五万円、合わせて、六十五  
万円が現在まで、還付金、予算額でございますが、  
ただ今手元に更正決定が参りますのを扱います。



六十五万円では不足しておりますので、急処追加をお願いいたしませんとございます。

一八番(西村真次君) 還付の原因といいますが、これは御説明によりますと、更正決定によつてきまつた分であるというような御説明があつたように記憶しておりますが、そうとありでありますか。

市民課長(羽山秀雄君) お答えいたします。中には年度を過年度にしないで更正決定がなされたものもございまして、大体当年度のものがおちなものでございまして、法人等の経営状態及び決算を見ますものに大体あつて、こういう更正がなされて還付するようになったものでございまして。

一八番(西村真次君) 過年度の方も含まれておるといふことは、わかるわけにありますか、当初二十万円を見込んでおつた

もうが六十五万円でもまだ足りない。三という過納金を  
 持つておるといふことは、確かな情報かどうか知りません  
 が、二重に課税されておった分もあるという話を聞いて  
 おるうであります。それはいついかにましても要する  
 に課税の仕方というものが妥当でない。過大に見込んで  
 おったのではないか。三というような疑念を持たれるわけで  
 あります。過納分が多いといふことは、当初見込みをつ  
 けるときにあまりに大きい見込みをつけているのではないか  
 ぞうために更正決定をやるときにもうい過ぎて返さなけ  
 んばならぬ。三という意味結果がみえておるうではないか  
 さうな傾向がありは—ないかといふことが疑念が持たれ  
 るわけであり。大体三十万を見越した場合にこの  
 範囲内で終るそうですか。どうですか。もう一度お  
 尋ねたいと思います。

市民課長(羽山房雄君) 結論から申しますと、今回の三十万円を議決していただきますよば大体間に合うという見通しをつけております。

大体申告納税でございまして三月決算、九月決算と、決算がまちまちでございましてこの数字をつかむのに苦勞するわけでございます。

一八番(西村真次君) 第一点了解いたします。

続いて保健衛生費、このこと自体につきましては列段疑義を持ちておりませんが、このに関連してお尋ねたいと思うことは大葬場に至る間道路の点であります。御承知のように果道から慈恩院ですか、より門前まで道路は舗装さしまして大へん立派になつたわけでありますがあつから大葬場より口まで手が付けられておりないようであります。これは地主である慈恩院さんも左側

、山になった部分を削ってもよろしい。提供します。大きな桜の木が植っておりますが、ニハバトまであれば取りもよろしい。ニハバトふうの切に道路のよくなることを希望してゐるわけであります。

確か区役所とも約束があつたはずだらうと思ひますが、今までどういうわけで手が付けられていたのか、また今後おやりになる意思があるかどうか、その点についてお尋ねいたします。

衛生施設課長補佐（中村正雄君）御指摘の道路につきましては、大型車が入ります場合に非常に危険でございます。一、なお参門等につきましても、早急に検討いたします。一、まして現在担当課の方に検討或いは設計等依頼をしておる。そういうふうな段階でございます。

二八番（西村真次君）担当課の方に依頼してゐるわけですか。

私が前に伺った範囲では前年度本までいやるということ  
確か課長さんが、おっしゃるに、おらいたことを記憶してあります。  
もともと清掃関係ではゴミ処理場も急がれております。  
—そう、関係で手がつかないだろう、ということには  
了解できるわけですが、区の方と約束もあつた  
はずですが、道路の負担金も一部負担する、そうい  
う点も参酌して、できるだけ早急に補修をします、まうに  
特に要望いたしまして、質問を打ち切ります。

一番(北田実君)四つほど御質問いたいたわけでございます。  
けれども最初に一大ページ、諸費十五節、工事費、  
中、西岬警察官駐在所建設工事でございます。  
けれども、この点につきまして、二、三お伺いいたいたわけござ  
います。

まず、西岬警察官駐在所、建設、その建物について

ては、市有財産になるのかという点、その点についてどうかということですが、そうだった場合、家賃とかそれらの関係、さらに移管するとか、こういう点も合わせて伺いたい。

この工事につきましては、県の補助金三十万、さらに地元の負担という点もあろうでございますけれども、地元の負担という点はどういう関係でもっておさへておるか。こういう警察の建物を建てるに当たって、地元の負担というものが集めらるることについては若干問題もあるか、伺わゆるわけでございまして、この点についてまず御質問申し上げたいと思います。

財政課長（長谷川広治君）お答えを申し上げます。第一点、所有権の関係でございますが、市有建物は市が管理し、家賃、使用料等も徴収していくという現在、状態とかわりがございます。地元の寄付金でございますが、西岬地区

の治安整備備というふうな観点から、市の財源も追加でございますので、若干苦しいというふうな考え方から、例えば団体等を対象にして、御寄付をいただければというふうなことで一般的な申しますか、各戸に配分をするというふうな寄付でなくて、そういうなかで、こういう寄付をお願いしたいということで大體了解して許してございます。

一番(辻田実君) その点につきましてはわかりまーた、ところで、こういう果の官舎とか、そういうふうな建物につきましては、いろいろ問題があるところでもございますけれども、一説に伺いますと、果のニール・出張所等については、本来であれば、果費をもってまかなうべきが、当然であるわけでもございます。従って、今度の場合には、館山市が建てる、提供するというところでございますけれども、例えは、警察署の構造内容、そういうふうなものにつきましては



一では敬義寮独特の設計、そういうものもあるやうでは  
 ないか。三——此点については、市の方としても敬義寮の駐  
 在所でございす。で、これを果にむしろ全額持つて  
 建てかえさせる。三——要望なり。運動、そういうこと  
 はできないのか。私は先般この問題について果々いろいろ  
 な関係者の方にお尋ねしたわけでございす。るけれど  
 ども、従来三——此果の建物については、地方自治体は  
 おいてむしろ果等に対して三——いうものを提供しま  
 す。という形の中で持ち込まれてきておる。従って果は  
 地方自治体に対して三——いうものを建ててくれとか、三——  
 いう負担金を——てくれということは決まらないうてない  
 そう。三——ことがあるとすれば、地方自治法さらに地賦法、そ  
 ういう問題について、かなり問題點が出てくるやうで  
 現実には各市町村から敬義寮署をきいてないから

全額持つからという形で処理されてゐるということでは、  
果て責任ある方も實際果といへば、まゝでは敬告察そ  
ういふものについて、地方自治体に対して決して無理を申  
し上げることは決してございせん。そういうことがあれば  
具体的に教えていただきたい。こういうふうなことを言  
わねばならぬで、私は、この点について、こちらでもう自主  
的にいふのだという二つにならば別ですが、そういう必要  
性があつて、こういうものを建てたのか、果ては頼まれ  
て、あつたのか、果ては方と論議したこともございます  
ので、腹藏がないところを御明解に御答弁をいただ  
きたいと思ひます。

。助役（小沢武男君）今、辻田議員が申さるるやうに、地蔵  
うけてまゐるからいけば、果ては果ては、果ては、国がも  
は国がやるという基本的な立てまゐるは取つてゐるやうで

でございます。

県有の市が持つというところ、不合理性につきましては、私も前、総務部長のときにいきまいて言ひ合ふにことがあるわけです。部長も確かにそうと仰いだ。一カー県ベースにまつてやる場合には全部県で持つ。一カー地元の要望。そういふ県が考えておるスケールはむしろ小さいわけであらう。ほかにオーバーに部分すなわち地元が要望が多いうで、地元が負担するものもやむを得ずするのだというわけでございます。当然、そういう弁解になることは、予測しておいたわけでございますが、なてまえとては、今申しますように、なることが、いまいわけでございます。同様なことが市自体でもやっているわけであり、強いことは言えないわけですが、なてまえはそういうことになるのが、理相に考えます。

いかしながら現時点におきまゝではやはり過渡的にそういうことが完全に行なわれていないというのが現状でございます。

西崎駐在所の問題につきましては一昨年あたりからこわいて雨漏りがする。場所もなかなか地区、人の出入りは多くなつた地域でございます。現状、建物にはふさわりくない。早く建てなおしてもらいたいという要望が地元を含めてありまして、さうに警察自体におきましてもそういう状況でございます。早くやつてもういたいという希望はあつたわけでございますが、あと回わりのことというが実情でございます。

こゝを果の建物にしろという考えでございますが、やはり私どもも駐在所でございますから、果の敬言警察部出張所ですから本来ならば果の財産としてやる

のが筋だと思ひますが、やはり果内いろいろな慣行がございまして従来駐在所というものは市に合併する前はむしろ町村で果に頼んで土地や提供しながら建ててもらつたという過去が慣例。そういうものがございまして市になりましてから、そういうことをぼつぼつ整理してあります。例えば地代、土地の賃貸料、そういうものを市から払うようにした。そういう傾向になつておりますが、まだ全部に行なわれておりません。そこで今回も一応今まで慣行を含みまして市有物件として市がやるんだという形態を取つたわけでございます。

一〇番(辻田実君)西畑の問題について、内容はわかりました。一カーミニで開いておると市の方でも分担してやらなければならぬということと言われておる。慣行という形で、一カーながら果の重要な役人に関く

とそういうことはありません。地税法云々ということと言われ  
るならあんなにも館山市議員なら館山市議会ではき  
りやたらどうかというところで論議して、こういう点は数  
察の問題ばかりでなく保健所の問題あり、こういう  
ものが多い。今各町村において問題になりつつある問  
題でございます。その点について今後注意してもら  
いたい。

最後に今回、改修に当たりまして、敬言署署長なり、  
敬言署関係者が、改修をお願いしてきたものか。こちらが  
全く自主的に改修ということを発表したのか。その点について  
簡単でよろしゅうございますから御答弁願いたいと思  
います。その他について二、三質問したいと思  
います。社会福祉業務費の中、安房地地区保護司会助成金で  
ございますが、婦人部より設置に伴って助成金として

五万六千円ということを言われておりまして、女房地  
区で保護司会や町村、そういうところの分担金総額  
はどの位か、さらに活動行事はどういうものがあるか  
か、それと関連して、私はいろいろ郡の関係や福祉問  
題等について入っておるわけでございますけれども、  
熊山市はどうも、郡の協議会と一緒にやることをけざら  
いとおる面がある。君津とかそういうところにくと  
一元化されてスムーズにしておるまいと思いますが、こ  
ういふ点についてどうふうに指導されておるか、なまに  
保護司会なり、そういうものに参加して補助金、分  
担金を出しておるまいでございますが、この点と関連  
して御答弁いただければお願いしたいと思います。  
二、ベニジ清掃費、十一節需用費、二の中で焼却炉や  
乾燥材十五万円、これは完成したのち煙突ですか、焼却



炉の中を乾燥させるために炭を一日一俵ですか。そう炭代  
ということを言わねえが、ニールは問題についてはよく  
わかりませんが、ああいう焼却炉を作ったときに乾燥さす  
ことが工費の内容で行なわねえなかったか、ニールについてお  
伺いしたい。ニールは契約の階段で見積り、そういう段  
階で落しなというなら別ですが、一般的にニールという点  
は含まれると思うけれども、あとから出てくるとそういう  
点について若干の欠陥もあったのではないかと思われる  
わけでございまして、どうなっておるか、お伺いしたい  
かように思っています。

助役(小次武男君) 第一点、駐在所の関係は今後そう  
いふ方向でやるべく努力したいと思っています。

郡と市と連合したいというグループに対して市がけがら  
いする傾向がある。ニールというふうに取りまねが、ニールは

今までもそういうふうなことはこっちから好んではおりません。できるだけ地区の団体と協力をして、そういう関係の団体の振興をはかつていく。こういうことは当然と思つております。ただ、たまにまー二三分担金や賦課におきまして、市が非常な過重な負担をやらせるような団体がございまして、ためにトラブルというほどでもございせんが、どうしても、郡と市と一緒にする場合に人口割でいく負担金の割当は困るということと、若干言ひ合ひをした団体がございます。

やはり市でも町村でも一個の自治体として、発言権は一村一でございますから、町村は十三票、こちらは一票でいつも負けるわけでもございしますが、不公平な分担金ではなく、公平な平等割とか公平な割当をしてもらいたいという二点をいつたことがございしますが、市を考えたときには

何も好んで外部の団体から離れて独自にやろうという考  
え方は持ておられないわけですね、ございます。

それから焼却炉の炭の問題ですが、これは当初実は  
そこまで考えなかったんですが、結局機械の保存のために  
そうやった方がいいというところで始めからやってもいいわけ  
だろうと思いますが、それでは炉のためにさくかないというの  
で市では向こうの言われるように二月とか、乾燥さ  
て正常な作業に入りたい、こういうことでやったので、  
こういうことがわかっておれば当初に組むべきだったと  
思います。

金額につきましては、主管課長から。

福祉事務所長（鴉沢貴寛君）安房保護司会のこと  
につきまして御説明申し上げます。

安房保護司会は定員九十名でございまして、分担金と

して果て更正保護助成金の方に住民一人当り三月  
の割合で納入しております。

今回の追加でございしますが、これは住民一人当り一月の割  
合で助成してもらいたいという要請がありまして計上  
したわけでございますが、なかなか、初め申しまして分担金  
だけでは思うような仕事ができないうこととて、この要  
請になったわけでございますが、事業としては、保護観  
察になつてゐる人の善導とかその他、社会を明かるくする  
運動に重点を置いて先だつて申し上げまいか、ような婦  
人会を構成してやつてゐるわけでございます。

・衛生施設課長補佐(中村正雄君)乾燥材の十五万につき  
まゝでは、炉が三つございします。一つは炉に対してま  
ゝ一日一俵必要でございしますが、百日分三百俵分で  
ございします。一俵五百円として積算をいたしております。

・三二番（君塚喜三君）歳入の使用料及び手数料に關連を  
いたしましてお尋ねをいたしたい。

例月監査報告によりますると使用料及び手数料  
について五月三十一日すなわち四十年度出納總算關  
鎖におけるところの滞納額が四万二千八百五十円、も  
つともこの額につきましては例月監査報告にミスプリ  
ントというところでございけません。ところで四十一年度  
分として五月三十一日現在より滞納額が六十一万二  
千八百八十円、従つて四十一年五月三十一日現在における  
実質的な滞納額というものはその後百一萬五千七  
百三十円であります。このことが配付を受けたいところ  
の例月監査報告を見ましても八月末より滞納額  
が七十万千六百七十五円、こゝはつきり明示されてございま  
す。ところで使用料及び手数料において収入調定という取

リ扱いてゐるものにつきましては、これは問題外であります。従いまして、それ以外について見まするときに滞納額があるとするならば、大きなものでは市営住宅の使用料、清掃手数料、衛生処理手数料等々あります。それと、市営住宅清掃手数料については、そんなに大きな滞納は考えられない。たとえれば、やはり衛生処理手数料であろうかと思ひます。ところでですね、昨年、九月定例市会におきまして、私の通告質問に對しまして、それお答之中で所管課長は、こゝうに答弁なさつた。

「従来やつております証紙の制度を採用していか。或いは前売リ、チケット制を採用したらどうかという。うな二点の制度などにつきまして、現在関係課々といろいろ検討を加えてゐるような状態でございますに、議

事録で確認したものであります。

ところが一カ年を経過した今日、いまだにチケット制などもこれに対する何らう対策がないように見受けらる。それが、このような滞り願いになってゐるものと思うわけであります。

一体、ニヤ点についてどう考えていらっしゃるのか。私はチケット制で十分解決できるものだと思いますが、所管課長は関係課といろいろ検討せられた結果、今なお踏み切れないというところにはどこにどういふ隘路があるのか。その隘路は何にあるのか。御答弁いただきたい。以上であります。

・衛生施設課長補佐(中村正雄君)まことに恐縮でございますが、本日課長が休んでおりまして、具体的なことについてはお答えできないような状態でございますが、か



ようなことで御了承いただきたいと思います。

・三番（君塚喜三君）それでは課長代理ということにはならぬかと思うのでございまするが、一か、わからぬものを教えていってくだいといつても無理でございましょうから、保留を置いていただきたいと思います。次回、議会において、はつきり御答弁いただきたい。以上であります。

・五番（荻生田七郎君）歳入面で寄付金と点についてお伺いしたい。金額はわずかでありまするけれども、北条小学校の開放送器の購入寄付金、これが総額三十万のうち十五万の寄付金がある。

西岬中学校の玄関の建設費に六十万のうち半分の三十万が寄付と相なっております。そこで教育長さんにお伺いしたいのでありまするが、本間市長さんが先般来、言明した如く、努めてPTAの会費を現在

よりも安くして、そうして需用費をせよだけふやすと  
いうんで現実に予算化されてゐる。ニういう問題は  
いづれも必要うものである。当然市でまさせなければ  
ならぬ問題であつて地元に半分も寄付を要求し  
てゐる。一ば一ば申し上げな如く、教育の機会均等と  
いう立場からいつたらばいろいろ考へ慮してもいい  
といふPTAはたくさんあると思ふ。そういう面  
において緊急欠くべからざる玄関にまで、建設費の  
半分も寄付を要求する。換言すればPTAの文  
児負担を過重にするという結果になります。

ニう一たあり方が市が財政が困難であるからい  
方がない。従来はニう一た逃ゲ口上で経過して参つた  
のであります。が本當り機会均等、館山市民が  
階級如何を問わず、地区如何を問わず、均等

う教育を受けるという権利を持つてゐる。これに合致するようないつの基本方針というもの。これをもちになつてゐるかどうか。さらに市費負担が過重であるから、ということ、依然としてこの半分を寄附金をこの施設に要望する御意思なりか。その点をお伺いしたい。特に危険校舎の改築順位等、御調査をなさつてゐるか、お伺いしたいと思います。

・教育長(押本禧逸君) 御答弁申上げます。

公費負担で当然なすべき義務教育の諸施設その他につきましては、市長も常におつちやうておらうとお考えでございます。ただいま御趣旨教育委員会にもその趣旨のうとりまゝ進めてゐるわけでございます。

一 かながら具体的になつたり問題になつてきますと、例えば西郷中学校の問題でございますけれども、玄関校

長室 応接室の未設置という学校は西岬中学校だ  
けであつたわけでございます。こういうことで当然なす  
べきであつたわけでございますけれども、なかなかそゝまで  
手が回らないで来たわけでございますが、今回特に地  
元の方々もよそから来賓の方々がいらしても或いは  
用事の方がいらしても玄関がない。なお校長室も  
ない。取員室でいろいろ話合ひということも、ほかの  
取員と一緒にでは困るような場合もあるわけで特にそういう  
御要望もございまして、本来は当然市で負担し  
ていただく途中の予算でなくて当初予算で組むべ  
きでございまして、特に地元の寄付等もあります。で、  
二十周年という有名な名前を付けてもらひまして、  
で、半分の代りをお願いしている次第でございます。  
それから、北条小学校の放送機のことでございますが、

これは今まで修理でやつてきておりまゝだが、部分品  
を取りかえることではどうにもならない状態になりまゝ  
特殊寄付というふうなものもまぜて何とかしてもらい  
たいというところでこういうことになつたわけで本日協賛  
をお願いしているわけでございます。

それから危険校舎についてでございますが、危険校舎  
の坪数というのは庶務課の方で大体計算してある  
わけでございますけれども全部の順序というふうなこと  
にやりまゝでも先々先までということになります。特に  
毎年度新築がでない。こういうことが多いわけであ  
りますので、特に大きなところは新築というにとくも  
なるわけでありましたが、あと修理で過すというふうな  
ものについては各学校から修理個所を毎年度の予  
算に提示させ、なお、教育委員会でも各学校を見て

もつとも急を要するところを調査いたしまして予算化  
をお願いする次第でございます。

・三五番(教生肉七郎君)よくわかりました。おそろしく地元でPT  
Aの御要求に対して予算化したいと思っております  
るが、今教育長さん御答弁は施設そのものが必要  
であるというところを述べられた。私はそのものは必要であ  
ることは認めておる。

私の問わんと欲するところはそういふ必要なくべからざる  
もうとPTAが寄付をするからとてく。二ういう  
請願の結果予算化されていくというところ。それがいいか  
悪いかわずか十五万、三十万というところでも地元で寄付金  
にまけてまかなう。義務教育の施設においてやる  
というところはいいか悪いかわずか早晩解消できれば解  
消せねばならぬ問題であろうと思ひます。

十一年より如く、いつも地元寄付を主眼としてPTA  
の要請があつては、いめてやるという現実、教育の機  
会の寄つというものと果して合致するかということに  
疑義を持つてゐるうであります。いづくにても今後  
は努めて、そういう問題は地元が要請がある場合に  
はやることは結構でございます。けれども半分を地元か  
ら寄付しろ、ということは、義務教育に關する限り、やめて  
もらうことが望まれる。それにあたりまえだ。あたりまえ  
のことができない、ということは、財政上、やむを得ないであり  
ます。そういうけれども、市長さん、一ぱ言明さうな如く  
PTAの会費を軽減して、そうために需用費を教  
育万増額計とされてゐる。

我々議会は、これを認めてゐる。これが現実であり、あります  
るから、今後、そういう点に対しては、努めて公費を出して



もういい。

それから今年も特別交付金が計上されておるわけでございますが、これは全額計上になっておりまうか。その点お伺いいたします。

市長（本間譲君）萩生田議員さんの学校建築費ですが、三という二に付きまして申し上げたいと思います。

私は前から申し上げておりますが、学校の需用費とか学校を建てるような金については父兄からちやうだいないという二とPTAの経費の軽減の措置を取っております。

西岬の中学校の玄関と校長室に接間の件でございますが、教育委員会が所管でございまして予算を作る前ですわ。話にいらした。これはまずい。

学校を建てるの二PTAから寄付をもらうという

ことはまずいからむしろほかう方に使つたらどうか。こ  
 ういふことで最初断つた。そういふ必要がもうならん  
 かに工面しても市費であるべきだといふので断り  
 込んですけいともPTAの会長さんやなんが盛んにま  
 いて実は二十周年記念事業として校長室の接室  
 玄関を建てることにして金も集まつておるからこれを  
 買ってくれないと私に責任問題にもなる。こつこつお話  
 してございまして二十周年記念ではかりもを買つた  
 らうのですが。とつたんです。さういふことで始めたわ  
 ら。そり金で建てないとなす。結局四十万円ださうです  
 よ。集めた金が私にまぎわになつて聞きましたら私とい  
 ては本意ではございせんが、地域住民の方がさういふ  
 ことがきまつておるといふから私に言わせるならもう  
 一ヶ月前に教育委員会の方でさういふ指導をやつて

もういれたかったと私は考えるわけです。

私はまぎわまで知らなかった。そういうような事情でございますから、今回特に御了承いただきたいと思っております。  
。三三番(三沢節君) 校生田嬢、質問に関連——まして若干聞きたいと思ひます。

ただいま西洲中学校の玄関についてあそこだけがな  
いということも申しまいりますが、二点、教育長さんは調査漏れではないかと思ひます。

御承知のように四中も玄関もございせん——校長室もございせん。もう少——答弁する場合に間違ひがないような答弁を——もらいたい。

もう一つは二十周年記念事業だから、寄付があつたから、~~三三番~~、こういうことでもござい申しますが、かつて館野小学校講堂を建てるときは四百万を無理して集めたので、

でございますが、最後まで教育委員会としては周年事業として講堂を建てるのではないから念に念を入れて言葉を慎みということでございます。最後の落成式まで九十周年事業として言葉を止めることができなかったのがでございます。

こういう例が出来ますと他へ学校で九十周年事業百周年事業ということがおそらく起こると思っております。こういった場合にそれはやむを得ない。こういった例があるからということになりますと、長期計画という学校計画というものが乱れてくる。こういうところは市の方で計画を建てて順次これを設置するということではないと極めて私は不合理でなかろうかと思っておりますが、この点について御質問いたしたいと思っております。

・教育長(押本穂俊君) 私こういった言葉の中に誤解を生ず

る面があつたまうでござりますが、或いは言い過ぎの面も  
あつたことをおわび申し上げますが、玄関がないのは今  
ところ、四中だということはお私もよく承知してあります。  
西岬中学校は、玄関も玄関らしい場所も校長室に  
接室、両方がないということをお言ひなかつたわけでもござい  
ます。なお、四中につきましても、校長室でない、こうおつて  
います。が、一応校長さんはあそこにならねていろいろの方が  
こゝろを人事等々御用も足せるわけでもございしますが、西岬中  
校については、そういう場所がない。そういうことでもござ  
いますので、来年度の当初予算の前には委員会として  
も踏み切つた。こういうことでもございます。  
二十周年という言葉について、或いは問題があつたかと  
思ひます。おわび申し上げます。

。三二番(三木節君)二十周年ということお言葉の言ひ過ぎ

ぎということは将来記念事業は追加補正でもう  
 二ういうことをやらないうことですか。やはり前創  
 にならうて陳情あり。寄付があれば補正でも  
 してやましようということなんですか。

・教育長(押本禧徳君)非常にむずかしくなつたわけで  
 ございますが、将来のことでございますので基本線  
 の公費負担すべき義務教育の費用については市長  
 もおつちやうております。線にそつて進めていきなうと思つ  
 わけでございます。

いろいろな陳情の形式でこらいますので先々まで  
 ここでなだちに申し上げることもございせんのでそつ  
 ときどき判断で基本線だけは線にそつていきな  
 うと思ひます。

・三三番(三沢節彦)非常に答弁もあつたやうなものでござい



ますが、要するに私たちは市長さんの御趣旨とありに  
PTAより負担軽減が会費より軽減に限らず、施設関  
係の負担も少なくてあげようという考えりょうで  
ございますので、できるだけこういった寄付を取りたいで  
計画をはずして補正予算でもってこういった玄関  
或いは応接室を作るといふことは努めて押けていき  
たいといふことを念願いたします。

次に高等学校費の敷地買収費でございますがお先  
だつて説明を聞いておつたんですがおよくわかりません。  
その内容をもういっぺん教えてもらいたいと思ひます。

・教育委員会庶務課長(千場伊右エ門君) 館山高校の敷地  
の中に八十石の共有地で百五十二坪の土地がある  
でございます。こゝは県に移管するときの条件に将来  
はあり土地を購入して県に寄付するうだといふ条項





予算をお願いした次第でございます。

・三番(三沢節君)御説明まわりました。買収した土地はただちに寄付するということも考えだと思ひますけれどもどうですか。それともう一つは八十名うち七名が行方不明だ。七名土地が未買収になっておりますか。それと同時に借りておるので借地料というふうに考えらるるんですが、どういうふうになっておりますか。

・教育委員会庶務課長(千場伊右エ門君)当然七名分残りますが一応その七名前と館山市と共有ということになります。七名分は借地料を払うということになります。現在どこにおるかかわらないということでございますので、できれば、この借地料は供託をしておかなければいけないのではなかというふうに考えられます。

・議長(田中稔郎君)二五番議員に対する答弁願ひがあり

ますので、答弁願います。

財政課長（長谷川広治君）今回、計上で全額計上になつております。

ニニ番（君塚喜三君）一点だけお尋ねいたします。

一カページ保健衛生費に関連することなんでござい  
ます。バシ尿処理場におけるところ、管理人宿舍の  
移転を保健衛生の上から人道上の問題として移転  
をやるべきだと思つてあります。二カについてお考  
えがなにかどうか。二カ点市長さんにお尋ねいたし  
と思つてございます。と申しますのは、御承知のように  
管理人宿舍が処理場の中にある。従つて三面が山  
をめぐらしてなるわけであつて、空気の流しが  
非常に悪い。従つてにおいも、酸い、それと小さなエ  
バ、っぱいなる。従つておさいなものをお手をつける氣に

なれない。それで見ますとそに子供がゐるわけですが  
妻君に死なして男手で子供を育ててゐるわけなんです  
が、子供たち顔も色さえ非常に悪い。これはそういう  
実情にあるために身内がときたま子供やめんどうを見  
にくわけですが一日いつてくると二日位顔が痛くて  
とうにもたらないということを事実訴えてゐる。前  
にも事故があつたんですが、これもおそらく、そういうこ  
ろに原因があるうではないか。

私がつてゐることが誇大であるというなら一度いつて見て  
いただければわかる。保健衛生問題というよりも人道  
上り問題ではないかと考えまするうで、できまするな  
らば、速やかな移転をお願いしたい。三つ思ふうで  
ありまするが、市長さんいかがでございましょうか。お尋ね  
いたします。

市長(本間 譲君) 私はそういうことを直接は存托しておりますが、そういうことであれば人々人命やなんかに関係しますから、移転をやつてみたいと思ひます。よく調べまして、善処いたします。

ニ番(若塚喜三君) ぜひ、そのような早期な取り扱ひを希望いたします。

三番(松本藤太郎君) 一四ページの市債七百九十万補正さいておりますが、これは市の方から願ひして、こうなつたのか、或いはむこうからあげましようということになつたものか、その点教えていただきたい。それから臨時特交ですが、今年度だけということで来年はないということ、ございますか。聞くところによりますと、来年からは、たばこ消費税にかたがりする。こういうことを聞いてゐるんですか、現在取つてゐるたばこ消費税は、たばこに、程度が一千万程

度のものが如えらるものなうか。その点を教えて  
いただきたいと思います。

それから寄付でございますが、ここには関係ございませんが、館高の  
募集移管によつて町村の寄付ですか。これが二百万余館の  
市に入らなければならぬことになると思いますが、この  
点どう程度入つてゐるか。それを教えていただきたい。

財政課長（長谷川法治君）臨時特例交付金から申し上げます。  
制度としては本年限りということではつきりしております。  
来年度からは消費税に移管するということなうか。ことでは  
ございすが、何分予算の方がはつきりいたしませんので  
明確な御回答は申し上げられません。現在ならば消費  
税プラス今年、臨時特例交付金、総額という程度  
に考えてゐるまうでございす。

起債の關係でございすが、これは御承知のとおり



起債の経費は毎年度四月以降に行なわれるわけでございまして、一応計上は前年度の実績に補助基準、工事単価等によつて計上いたしておるわけでございしますが、本年度は交付税の減額というもりに関係をいたしまして起債の幅を若干国が大幅に認めるというふうな関係で伸びましたものが半分に、約半分につきましては特別にお願いをいたして増額をいたしてもうけたというものが約半分。

教育委員会庶務課長（干場伊右衛門君）館山高校の整備寄付金として二百八十万二千円ずつ入ってくるというのと、なつておりますが、それが五カ年でございます。三十八年から四十二年まででございしますが、現在三十八、三十九、四十年で八百四十万六千円入っております。あと四十、四十二年で五百六十万四千円入るわけでございしますが、今年分と



予算化しておりますのは二百八十万二千円でございます。  
この分はまだ入っておりませんので大体十二月頃から請求  
書を出して年度末までに全部入ってもらおうということに  
ございます。

。三五番(松本藤太郎君)大体了解いたしまして。町村から  
も、付当然出てもらわなければならぬ。これは約束で  
すから強硬に取っていただきたい。

それから市債の方でございますが、こういうことになる  
結局七百九十方という膨大な金が一般財源から浮いた。  
こういうものについて、使ひ道といえますか、これについてどう  
いったような方向にいくものか、私とすれば、できるだけ、今日  
教育施設が大きな問題が次々に出ておりますので、  
そういう方面にぜひ振り向けてもらいたいというふうに  
思っておりますが、私、希望でございますが、もう考えて

おるような点がございまいたら、お答えいたげるなら  
お答えいたげない

財政課長（長谷川広治君）私どもの考え方といえましては、  
こつようにふえたいものは臨時的な財源にかたがわりを  
して、くという関係から、今回も教育費に三百万ばか  
り一般財源として回わいたわけですが、必要の都度  
教育費ということにこだわらないうで必要の経費に振り  
向けていきたいと考えております。

三五番（松本藤太郎君）私が教育と特につたことは、起債が多  
くありますと、四十七年度末には二億九千万というこで、た  
が、これをいしますと三億近いものになる。さらに来年度、  
市民会館が四千九百万、その他、漁港の整備とか、未  
償とか、市民センターをぬかいた教育債、消防債、そういう  
ものをいしますると、なぞらく来年度は七千万位の起

債額にかり、今までかつてない起債の額が出てくることか、  
容易に予測する。結構です。大いに金は借りてぜひもう  
もらいたい。カー、こういふような教育面に対しては、こうい  
ふに余った一般財源の余ったようなときにぜひ入れてもらいたい  
来年の末には三億という、かつてない膨大な金になり、  
償還というものは二千万を突破することも予想される。  
ですから起債も結構やっていかなければ、水信号が出ない  
手前までやっていかなければ、それにまつて存いた一般財源  
というものは、そういう方面に有効にほかうものが有効  
でないとは言いませんが、市として問題になっておるところ  
にやういふ大きな、いやことを要望いたします。

・三三番(高橋文治君) 一大ページ五日の財産管理費の十二節  
役務費につきまゝお尋ねいたします。  
登記料十五万二は結構でございます。

私ある地区の人から聞きました。だが、道路改修に提供して用地がいまだに未登記になっておるといふことを聞きました。だが、これは事実でございますか。これが第一点。

それから未登記の箇所は相当ある。五十件も百件ではきかない。相当古いときからあるといふことを聞いておりますが、一体どう位あるか。この点お尋ねしたい。

財政課長（長谷川広治君）お答え申し上げます。具体的な個人の名前を挙げればお答え申し上げられませんが、果して御指摘の分がこの中に入っておりますか、はつきりいたしません。それから古いもので未登記といふ関係でございますが、現在私どもで市有のものを調査しておりますが、現在わかっておりますのもうでは、この九月二十日現在では三百十筆だけが未登記という二とになっております。

大昔のようなものも現在調査をするだけのものが残って

おりませんので、はつきりいたしません。このうち、大体本年  
度中に五〇％登記を促進いたしたいというふうに考えて  
おります。

三三番（高橋文治君）三百件もありまゝに相当の手数と  
要すると思ひますが、提供する人は心配しておりますか  
ら早く解決することをお願いいたしまして、終了します。  
六番（秋山六三郎君）幼稚園のうち、西岬幼稚園の消耗品五万  
円、教材購入費十一万円、二に上っておりますが、歳入の  
方を見ますと補助金で十六万円、果の方から入るようにな  
っております。おそらく西岬の幼稚園を新設いたしたこと  
による補助金であろうと考えるわけでございます。

私は本年、四月に新設された幼稚園でありますので、  
新しく設けましますときに必要なものは十五、六万のことでござ  
いますから、当然当初予算に計上すべきである。

二、考えるわけでありす。一応使つておいてあとから  
 金が入つたからふ出さしていくという感がある。す  
 わけであります。元来教育の問題でありますから  
 当初から一ツかりな計画を持つてやつていかなければ  
 ならぬ。二、三、四に考えるわけでございます。その意味  
 からいえますと、いさゝか当初の計画において  
 計画性がなかつたやうに考えらるゝ。でございますが、  
 二、三、四について御説明願ひたいと思ひます。

・学校教育課長（山根春夫君）西岬幼稚園の設置につ  
 まりては、当初予算でお願ひして一応の備品（  
 整備は）なわけでございます。一、二、幼稚園の設置  
 につきまゝは、十分の予算を願ひするまでい  
 つかつた。それでここに重ねてお願ひしなければなら  
 ないといふことになつたわけですね。

秋山議員さんのおおせうとあり、私も、お手際でもございませう。

文部省から、十十万円というの、実は、市の方で予算として、四十万円補助対象になるものを購入した場合に、その三分の一、十十万円がくる。限度は、十十万円、二十万まで補助がくるということになってゐるわけでございます。

四十万円の三分の一でございまして、消耗品と備品に分けておりますが、二年月以下消耗ということに分かれておりますが、ともに、~~費~~具でございませう。

そういうふうにあつたら、追加して購入させてもらふわけでございます。

そういうふうになつたことは、私も、至らなかつたところでございまして、申し分ないと思ひますが、何とか、西岬の幼稚園を整備して、子供たちが楽しい、安全な学習ができるように



一たい。こつうふうの思ひわけでございます。

六番(秋山大三郎君) ただ今御説明で大体了解できまするがこつうふうものは設置するときに十分調査して金額にしても十五六万のことでございますが、こつうたものが当初予算に盛らないことはないと考えますので今後なるべくこつうふう施設、特に幼稚園費を補正につきまゝしては大体が公開研究とかいふようなものがおもになつておしまつて消耗品費とか教材の購入といふのはあまりないであります。当初からそういう計画を十分お立てになつて当初予算に組み込むことのできる範囲の金額であるといふふうに考えます。

将来十分御注意願つていただきます。かまうに要望いたしまして質問を打ち切ります。

議長(田中祿郎君) 議案第五十八号 討論省略原案通過

リ可決することに御異議ございせんか。

(「異議ナ—と呼ぶ者あり」)

議長(田中祿郎君) 異議ナ—と認めます。よつて議案第五十八号は原案通り決定さしなうた。

日程第八 議案第五十九号乃至第六十二号を一括議題といたします。

二四番(志村信作君) 国民宿舍の九十五万六千円ですが、国民宿舍もユースホステルもともに特別会計であります。を収入があつたときはすべて一般会計に入れてしまう。必要があると一般財源から補給するということであつて、特別会計ではあつても一般会計と同一に取り扱ひになつてゐますが、こゝに御説明をお願いいたします。

と畜場の方は積み立ててありますね。国民宿舍もユースホステルは積み立てがない。だから修繕するときに

風呂場でも一般会計から回ましてもうって大へんおか  
しいのでと畜場のように今後は積み立てておくことが必要  
だ。そうしてあくまでも特別会計だという観念を持て  
やるべきだと思ひますが、その点をお尋ねいたします。

商工観光課長（小沢正昭君）休養施設会計におきまゝて  
は建設第一年度に一般会計から支出をいたしたいなこ  
とがございますが、開設以後一般会計から繰り出を  
受けたいとはございせん。それはいないまでも建物が木  
造でございます。そして三年後、五年後、大改修費  
ということも当然考えらるるわけでございます。

そういふ考えから、新年度条例を實施し、まして積  
み立て金の計画を現在研究中でございます。

一四番（志村信作君）ただ今、御説明でわかりました。おれ  
そう、ふうふういっていただきたいと思います。

議長(田中祿郎君)議案第五十九号乃至議案第六十二号は討論省略原案通り可決することに御異議ございませんか。

(「異議ナシと呼ぶ者あり」)

議長(田中祿郎君)異議ナシと認めます。

よつて議案等五十九号乃至六十二号は原案通り決定せらるまゝです。

おはかりいたします。

本定例会の会議に付さる議件はすべて議了いたしました。

よつて会議規則第七條の規定により本日をもって第三回市議会定例会を閉会することに御異議ありませんか。

(「異議ナシと呼ぶ者あり」)

議長(田中祿郎君)異議ナシと認めます。よって本定例会をこゝにて閉会するこゝに決定いたしましな。

午後四時二十四分 閉会

本日の会議に付した事件

一 議事日程に同じ。

出席議員

吉田 勇治郎 鈴木 正一郎

小柴 孝 館石 伝蔵

田中 祿郎 秋山 大三郎

田村 源治郎 望月 照正

安西 益男 辻田 実

石井 正 菊井 敏博

志村信作 小沢惠太郎

関武夫 西村真次

藤田好治 保科忠夫

江田徳太郎 君塚喜三

中村省吾 島野茂樹郎

荻生田七郎 嶋田繁

山田敬平 鈴木市蔵

安藤亀吉 安沢徳順

三沢節 高橋文治

山本昇 松本藤太郎

大席議員

黒川佐太郎 山口康

出席説明者

一 第一日目 同上

出席事務局取員

一 第一日目に同ト

昭和四十一年九月三十日

右会議の次第を録しここに署名す。

鎌山市議会議長

田中 祿郎

同 署名議員

山田 教字

同

安西 益男



